

〔資料〕

無盡藏蓮體『續鑽石集』 翻刻と解題 (二)

関口 静雄

〔解題Ⅲ〕寶山湛海のこと(其二)

※

延寶六年(一六七八)十月十日、湛海は生駒山に攀じ登った。五十歳の時のことである。山麓菜畑村の里長朴木六右衛門を案内役として登攀し、弟子の妙道湛清と清心淨海、近習の淨人と淨圓が同道した。湛海の生駒入山を蓮體は『真言鑽石集』(元禄五年(一六九二)叙)卷四に収めた「和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事」に、

般若窟ニ移テ艸莽ヲ芟テ茅屋ヲ締デヨリ已來。今ニ十五年影山ヲ下ラズ。常坐不臥。日夜ニ不動尊ノ咒ヲ持念ス。鬱トシテ伽藍トナレリ。觀史陀山。大聖無動寺ト号ス古老傳ヘテ曰ク此山ハ都率ノ内院ヲ表ス。神仙ノ窟ナリ。役小角曾テ經行シ持念ス。俗人漫ニ攀登バ、袂殃ヲ受ト。

と、湛海が生駒山上の般若窟に茅屋を結んで以来十五年山を下りず、常坐不臥にて日夜に不動尊咒を持念し、觀史陀山大聖無動寺を中興して鬱然たる伽藍を整えたこと記し、さらに古老の伝を引いて、この山が都率内院の現出であり、窟は神仙が住する淨土であって、役小角はかつてこの地で斗藪し静修したのであり、俗人が漫りに登攀すれば妖異なる災いを受けるといふ鎖された靈地であったと伝えている。若年のころから常に小角・泰澄の風を慕ってその行法を日々実践してきた湛海は、ここに籠ってさらに小角の風を崩さず大聖無動寺を中興したのである。その山号觀史陀は都率・兜率の意に同じく、須弥山の頂上十二由旬に所在し、外院は天衆の欲樂處、内院は弥勒菩薩の都率淨土であって、弥勒はここに在して説法し閻浮提に下生成仏する時の来るのを待っているという。蓮體は湛海が生駒一山を弥勒の淨土として整え得たことを密かに讃しているのである。

延宝二年(一六七四)春三月、出家して間もない十二歳の若僧蓮體が洛東栗田口の天王坊歎喜院で初めて面識を得たとき、その眼に映った湛海は歎喜天の行者だった。しかしそのころ湛海は自身の聖天信仰に揺らぎを生じていた。そのきっかけは寛文十年(一六七〇)の春に和泉堺の神鳳寺真政圓忍律師の来訪を受け持戒の徳を諭されたことにあった。ほどなく湛海は圓忍から菩薩戒を受けて聖天信仰を離れる決心をし、延宝元年(一六七三)春、歎喜院を江戸深川永代寺の兄弟弟子であった周範に譲った。その折り周範が浴油供の伝受を請うたので一座の修法を行じたのであるが、その修法中に聖天が出現した。その経緯を湛海はみづから『靈感記』(『寶山湛海傳記』史料集成)所収)に、

此度之修法、永キ御イトマゴイ也、後住ヲ御メクミ玉ハリ候へと、祈願スル時、御聲アリテノ玉フ、イヤシラス、汝ハ我ヲ捨置他所ニ行ク、汝ヲ一生安隱ニラクマジキソト、血眼ニテニラマル、時ハ、身ノケモタチ、迷惑セリ、それより圓忍和尚ヲ爲師、法隆寺北室ニ住ス、然トモ諸事不如意ニシテ、甚々憂惱ス、發病シテ、難儀數多ナリ、此節、予思ク、是皆天ノウラミアル故也、如此アリテハ、アヤシキカナ、受具戒成就ノ事、所詮御ワビヲ申サンニハシカジト思ヒ、願書相認メ、時今已後、法施ヲそなへ、日々法樂セン、願ハクハ御ウラミヲユルシ玉ヘト發願ス

と記している。「受具戒成就ノ事」は菩薩戒受戒の記憶違いであるが、それを聖天が怒り恨んで種々の難儀障礙を与えるのだと湛海は考えたのである。そう考えたにはわけがあった。

湛海は承応二年(一六五三)高野に登って仁範上人を師として密教を学び、また東寺の光弁阿闍梨を師として四度加行を行じ、さらにまた高野山蓮華三昧院の頼仙を師として両部の灌頂を受け、明暦元年(一六五五)江戸に帰るや聖天浴油供を初めて修し、以来もっぱら浴油供と不動護摩供に

精勵した。湛海はしばしば諸仏諸天の夢告を得たが、ことに聖天の夢告は絶対であって、寛文五年（一六六五）洛東粟田口に創建したばかりの歎喜院を措いて、明暦の大火で焼失した永代寺八幡宮の再建に携ったのも聖天の夢告指図によったのであり、困難を極めた再建事業が成就したのも聖天から種々の奇瑞を得たことによるのであった。寛文七年（一六六七）末に歎喜院に帰り、翌年初頭から聖天供に専念していたが、寛文十年春に来訪した圓忍律師の諭しを受けてから思い悩み、六百日も続けてきた浴油供を止めてしまった。そうこうするうち寛文十二年（一六七二）夏の一夕、湛海は不動明王の夢を見た。

已前江戸ニ住セシ時、永代寺道場ニシテ八千枚ヲ修セシ時、助法ノ僧居テ、云様ハ、汝イタツラニ食着シテ、無明之眠リニシツミ、ステニ名利ノ穴ニヲチントス、明王大慈大悲ヲ以、汝ヲ開示シテ、塵ヲ出サシメンノ方便也、一持神咒生々加護之大誓アルカ故、汝ヲ捨テ玉ハス、汝不知哉、是ハ先ニ八千枚ヲ修セシ其功也、早く名利ノ夢ヲ覺マシ、可發菩提心云云（中略）時今已後、世ノ名利ヲ捨テ、發菩提心、無爲眞實之道ヲ修行セン、決定シテ、不動明王ノ法ヲ修セントスルニ、大キニ聖天ノウラミヲ蒙リテ、只人間惡心無道ノモノノ荒レサマタクルヨリハ、甚々ソレニハ過キタリ、皮肉骨ズイノ間ニ入テ痛メ、又座ヨリ引ヲトスカコトク、種々無量ノ障リアリ、予モ身命ヲ捨トモ、生死一大事ハ此所ト思ひ、勇猛心ヲ勵マシテ、先ツ天ニ領シラレサルサキニ、先不動明王之御眷屬ト可成ト覺悟シテ、先身命ヲ不動明王ニ奉ル、今日ヨリ已後、永ク不動明王ノ御眷屬トナリ奉ル

『靈感記』に記された右の夢には、仏道修行のあり方に苦悩する湛海の姿が彷彿する。かつては聖天を恃んで名利を願う僧としての富貴榮達を望んでいた湛海であるが、夢中に不動明王から「無爲眞實之道」を示されて明王の眷屬たらんと、翌延宝元年（一六七三）春には八千枚護摩供二座を修し、その決心のほどを示している。それほど湛海にとって聖天信仰から離れることは難儀な一大事であった。

しかしその春、歎喜院を周範に譲るに際しても聖天の怒りを買い、圓忍律師を師として法隆寺北室院に止宿して戒行に励んでいる折りにも聖天の障礙を蒙ったのであって湛海の憂悩は尽きなかった。そこで湛海は聖天に詫びる願書を認め、日々の法施と法楽を誓約して赦しを乞うたのであるが、発願したその夜に見た夢は思いもよらぬものであった。

其夜夢ル、聖天ノイカニモニウワナルヨソヲイアリテ、ノ玉ヲ、汝ハ苦シム事アレハ、是ハ天ノウラミ、是モ天ノシワザト、皆惡事ヲ我ニ讓ル事ハ非也、我ハ先ニハウラムレトモ、今ハ無左ハ、菩提心ヲ發シ、持戒ニ成ヲ、天カキヲフト思ふヤ、キライハセヌゾ、ヨノレノガ業報ノカンスル處ハ、我モシヤウ事ハナキゾ、只律ハ袖ノ長キ殊勝ナル物ゾト思也

この夢告を受けてのち、病氣も平癒し身心に安穩を得たという。湛海は長年の憂悩から一気に解放されたのである。これまでの聖天信仰はその威力や利益を恃んで現世において富貴榮達することにあつたのであり、それは無上の菩提心や無為眞實を得るための仏道修行や、まして戒行などとは相反するものだと考えていた湛海にとって、その夜の聖天の夢告は喜ばしい衝撃であつたはずである。長年崇敬してきた聖天信仰を捨てる必要もなくなったのである。晴れ晴れと身心安穩の状態にある湛海は圓忍とともに洛東粟田口の歎喜院に帰った。そうしたころの湛海に蓮體は初めて逢つたのである。おそらく湛海は若僧蓮體にさまざま語り聞かせたであろう。また圓忍・淨嚴・湛海の三人がたがいに語らって「其道冥ニ合セリ」というのは戒律復興とその弘通に係わることであつたはずで、それも弾んだものであつたに相違ない。

※

湛海に生駒山移住を勧めたのは忍熊常光寺の洞元律師だつた。湛海は延宝二年（一六七四）十二月、神鳳寺に赴き圓忍について律を学び、同四年正月には圓忍を師として具足戒を受け、その秋には衆中の憤鬧を厭うて大和風森の医王山南禅寺に籠り苦修練行に精勵していた。そこに洞元律師が訪ね来たのである。洞元通慧律師は神鳳寺で菩薩戒を受けた人で神鳳寺末の忍熊（現、奈良市押熊町）常光寺の住職だつた。『靈感記』延宝六年（一六七八）条に、「洞元比丘來テ云、生馬山般若ノ岩、古佛ノ淨土ト聞ク、彼山ニ住ム人アラハ、里人等アタエント云、然共彼ニ可住ト云僧モナシ、衆中ニ評判シテ云、寶山ナラテハ住ム人アルマシキト云故ニ、告ゲ來ル云、予兼而心アル故、急ニ可移ト云」とあるように、洞元律師の勧めを受けて湛海は即座に生駒山移住を承諾した。しかしその折り聖天から「彼山好石ガ、トシテ、境地汝カ好ム所ナレトモ、人倫ノ絶シテ食物ナシ、殊更人ノ障リアリ、可難儀可爲無用」とお告げがあつた。けれども湛海は「明王ニ

ハ無二無三可越ト思召事、予カ心ニ通テ知ル故、急ニ引越ベキ覺悟」をし、聖天には安穩に修行できるようになったら「山ノ鎮守」として崇める約束をして、同六年十月十日、朴木六右衛門を案内として弟子・近習等四人とともに生駒山に登ったのである。

延宝六年十月十四日付の『寺地寄進状』が宝山寺に所蔵されている。菜畑村の庄屋・年寄等村役十五人が署名捺印の上で「法山律師」に宛てたもので、寺域の四至を示し、これを永代に寄進する旨が記されている。この『寺地寄進状』によれば、かつてここに般若岩屋山聖無動寺と称する寺が存していたが荒廃し、湛海が入山した時には山門の礎石とわずかに弁才天女堂・不動尊堂が残るばかりだった。しかし湛海はこの荒廃した生駒山に鬱然たる大伽藍を建立したのである。入山以来、一山伽藍を整えるまでの湛海の行業を抄記すれば、

延宝七年（二六七九・五十一歳） 仮本堂を造立する。菜畑村の神主から返還された弁才天像を、遺存の堂を般若窟に移して祀る。般若窟頂に五輪塔を發見する。

延宝八年（二六八〇・五十二歳） 本尊の不動明王坐像を自刻して仮本堂に安置し、また等身の不動明王坐像を自刻する。

天和二年（二六八二・五十四歳） 般若窟に弥勒菩薩坐像・金銅虚空蔵菩薩像・十三重石塔を安置する。

貞享元年（二六八四・五十六歳） 観音堂を建立し、院達作十一面観音立像を安置する。また大聖無動寺を大和西大寺の末寺となさんことを請う。

貞享二年（二六八五・五十七歳） 光明院を建立し、院達とともに作った不動尊像を安置し、般若窟に役行者像を安置する。

貞享三年（二六八六・五十八歳） 天堂と供御所を落成し、天堂に天和二年に自刻しおいた聖天像を祀る。また西大寺長老に推挙される。

元禄元年（二六八八・六十歳） 本堂を落慶し、延宝八年に自刻しおいた不動明王坐像を安置する。

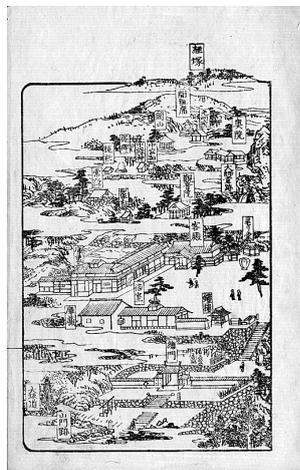
元禄三年（二六九〇・六十二歳） 春に十万枚護摩供、秋に八千枚護摩供を修し、秋以降みずから『靈感記』二巻を記す。

元禄四年（二六九一・六十三歳） 不動明王画像を三幅描く。覺彦浄嚴より

『不動瑜伽秘要抄』三巻を贈られ、返礼に秘蔵の三鈷杵を送る。元禄五年（二六九二・六十四歳） 大聖無動寺の寺号を改めて寶山寺とする。という次第である。蓮體は「和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事」において、湛海は生駒山上の般若窟に茅屋を結んで以来十五年山を下りなかったと伝えている。湛海は役小角・越の泰澄の風を生涯失わなかったのである。



生馬山図 画・浪華森徹山橋守真 (1775-1841)



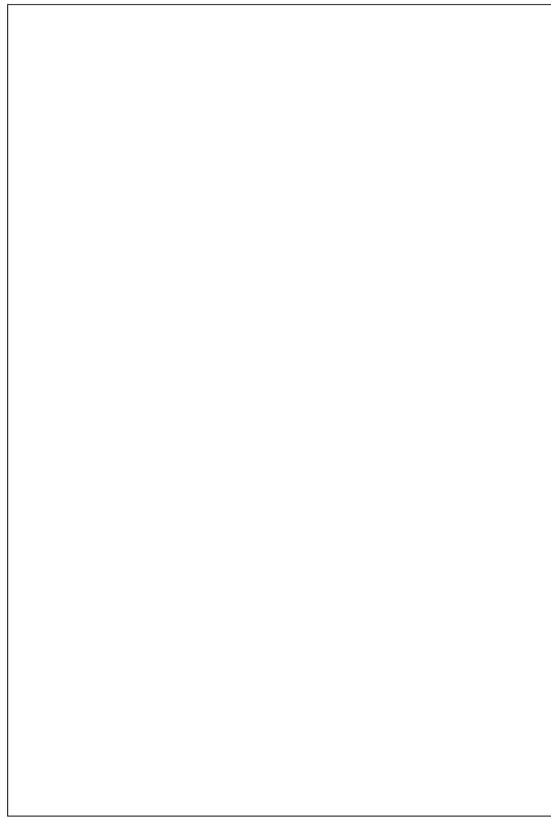
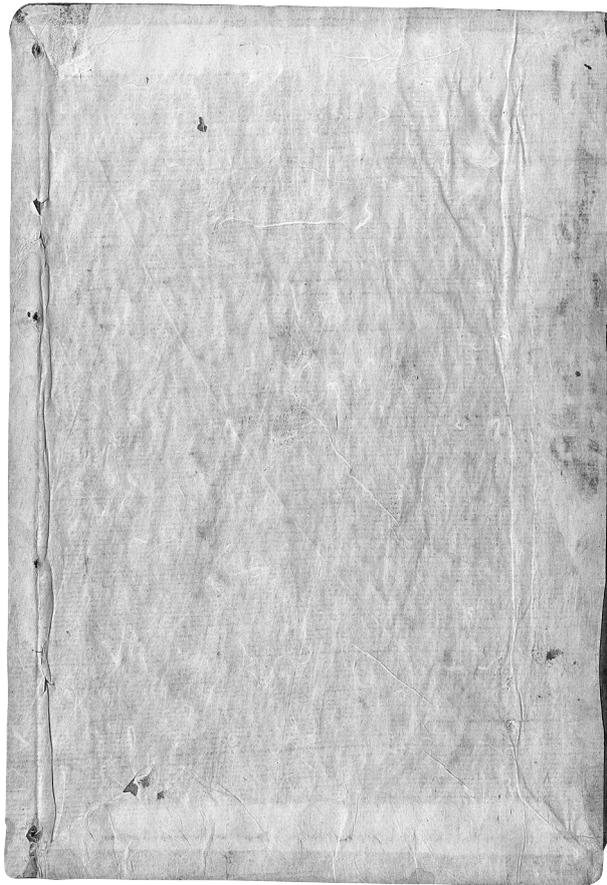
『生駒山寶山寺緣起』(文化10年〈1813〉2月、寶山寺藏版。宮島コレクション蔵)

1 注

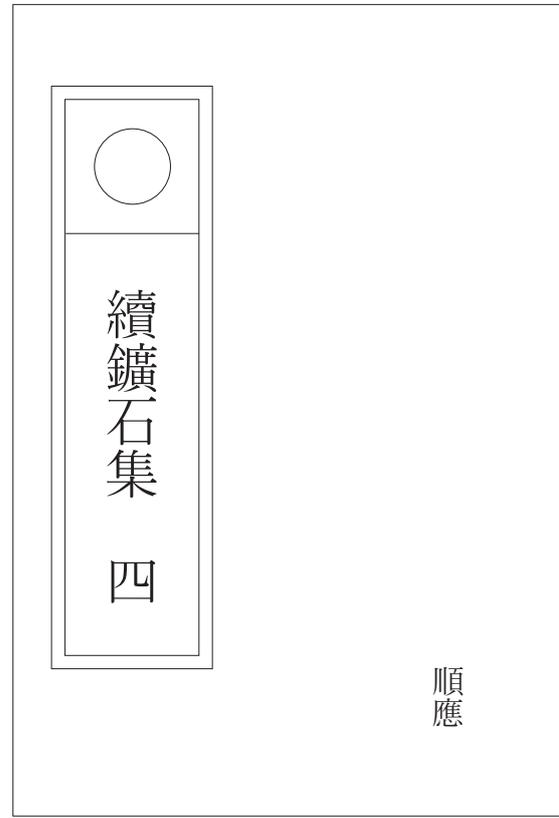
「和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事」に、「寛文四年三十有五ニシテ洛東栗田口歡喜院ニ移テ精修ス。花水供ヲ修スルコト二万餘座浴油供ヲ修スルコト二千日。其後數ハカラズ。或ハ聖天形ヲ現シテ語ス。所有ノ祈願稱フコト鐘谷ノ空シカラザルガ如シ。不惑ノ後マデモ常ニ天供ヲ修シテ無上菩提ヲ祈ル。天尊形ヲ現シテ曰ク無上菩提ヲバ我知ラズ。僧都僧正ノ官ヲ得。帝ノ師トナリ。大對ノ歸信ヲ得セシメンコトハ。願ハ、即チ成セシメント。」と伝える。湛海の現世における望みは大きかったのである。

「和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事」に、「千座ノ護摩ヲ修ス。又二百日ヲ期シテ無言ニシテ常ニ禪坐ス。便轉ノ外立ツコトナシ。夏末ニ至テ鬢ノ皮帷子ニ著テ剝タリ」と伝える。荒行だった。

2



(白丁)「④」下本表表紙見返



「④」下本表表紙

順應

續鑛石集下本

目錄

- 一六空塔波ヲ疎畧セル僧現罰ノ事
- 二六太神宮御利生ノ事
- 三六八者人ニ託シテ巡禮スル事
- 四六光明真言種々利益ノ事
- 五六雲州金剛頂山大師御影御利益ノ事
- 六六阿波國不朽物語ノ事
- 七六追福回向年忌等ノ本説並ニ盆供奠等ノ辨
- 八六地藏菩薩種々利益ノ事
- 九六不動ノ靈像利益ノ事

●續鑛石下目錄

- 十ニハ阿弥陀如來ノ靈像不思議ノ事
- 十一ニハ勢至菩薩ノ形像靈驗ノ事
- 十二ニハ藥師阿弥陀ノ靈驗ノ事
- 十三ニハ地藏菩薩種々不思議ノ事
- 下末
- 十四ニハ高祖大師種々御利生ノ事
- 十五ニハ八咫顯レテ追善ヲ乞得脱セル事
- 十六ニハ刑罰ニ逢シハ者回向ヲ蒙リ來テ禮ヲ云事
- 十七ニハ光明真言ノ法効驗ノ事
- 十八ニハ燈明ヲ供ズル功德利益ノ事
- 十九ニハ光明真言加持土沙ノ利益ノ事

續鑛石集下本

目錄

- 一ニハ空塔波ヲ疎畧セル僧現罰ノ事
- 二ニハ太神宮御利生ノ事
- 三ニハ八者人ニ託シテ巡禮スル事
- 四ニハ光明真言種々利益ノ事
- 五ニハ雲州金剛頂山大師御影御利益ノ事
- 六ニハ阿波國不朽物語ノ事
- 七ニハ追福回向年忌等ノ本説並ニ盆供奠等ノ辨
- 八ニハ地藏菩薩種々利益ノ事
- 九ニハ不動ノ靈像利益ノ事

●續鑛石下目錄

- 十ニハ阿弥陀如來ノ靈像不思議ノ事
- 十一ニハ勢至菩薩ノ形像靈驗ノ事
- 十二ニハ藥師阿弥陀ノ靈驗ノ事
- 十三ニハ地藏菩薩種々不思議ノ事
- 下末
- 十四ニハ高祖大師種々御利生ノ事
- 十五ニハ八咫顯レテ追善ヲ乞得脱セル事
- 十六ニハ刑罰ニ逢シハ者回向ヲ蒙リ來テ禮ヲ云事
- 十七ニハ光明真言ノ法効驗ノ事
- 十八ニハ燈明ヲ供ズル功德利益ノ事
- 十九ニハ光明真言加持土沙ノ利益ノ事

二十ニハ女人回向ヲ得テ成佛スル事
 二十一ニハ日牌ヲ建ル逆修ノ利益ノ事
 二十二ニハ高野山ニ登ル人魚肉ヲ持參シテ天狗ニ擲レシ事
 二十三ニハ奥院御廂ノ橋ヲ渡リ得ザル人ノ事
 二十四ニハ逆修日牌ノ靈驗並ニ光明真言利益ノ事

●續鑛石目錄

二

二十ニハ女人回向ヲ得テ成佛スル事
 二十一ニハ日牌ヲ建ル逆修ノ利益ノ事
 二十二ニハ高野山ニ登ル人魚肉ヲ持參シテ天狗ニ擲レシ事
 二十三ニハ奥院御廂ノ橋ヲ渡リ得ザル人ノ事
 二十四ニハ逆修日牌ノ靈驗並ニ光明真言利益ノ事

【●續鑛石目錄

二

】

「④下目錄 02 オ

「④下目錄 02 ウ

續鑛石集下本

一ニ六宰塔波ヲ疎略ニセル僧現罰ノ事

備後二僧アリ慳貪放逸ナリ。檀那ヨリ塔波ヲ持參スル時ハ。長ケレバ其ノ本ヲ切テ縁脚トシ。或ハ漏浴ノ火ニ燒ク。惡行積重テ大病ヲ受。頸癰ト云物生ジテ浮腫シ。膿血流レ出ヅ。其臭穢不淨苦痛逼切言語ニ述ガタシ。膏藥ヲ點レドモ効シナク。内ヨリ糞蠅飛出ヅ。終ニ頭骨腐リ落テ死ス。現ニ見タル人ノ物語リナリ。制底ハ大日弥勒ノ三摩耶形ナリ。常ニ切取漫リニ用ルハ。出佛身血ノ罪。五逆罪ノ一ナレバ。現罰ヲ蒙リシモ理リナリ。世ニ無慙愚癡ノ人アリ。率都婆ヲ以テ籬籬トシ。甚シキハ板鋪ノ破レタルヲ補ヒ。真言ヲ書タル故紙經文等ヲ以テ。壁ノ腰張トシ。澀帚トシ。或ハ火中ニ投スル者アリ。是

續鑛石下本

又五逆罪ナリ。サヤウノ反故ノ何トモ弁ベキ處ナキハ。淨處ニ埋カ

又ハ濟度利生ノ大悲ニ住シ。大河ニ流シ。池中ニ入レバ。水中ノ有情罪障消滅シテ苦趣ヲ脱ス。是モ慈濟ノ心ナク。只棄捨ノ心ニテ擲ハ大罪ナルベシ。欽ザルベケンヤ○又紀州ニ一僧アリ。老僧隱居ノ後入院シテ。老僧ハ寺持疎畧ナリ。不掃除ナリトテ。新ニ修葺ヲ加ヘ。墓處ノ率塔波ヲケヅリ。棚ヲ鉤リ桶柿トシ縁脚トス。時ニ其棚桶等ムチノト鳴聲頻ナリ。此僧何トヤラシ恐シク。若ハ率塔波ノ崇ナランカト思ヒ。懺悔スレドモ其鳴聲少モ不レ止。可畏コト限リナシ。住持モナリガタカラシ。退院セバヤト思ヒシカ。入院シテ後日數モナキニ退院スルモ。他人ノ嘲リ如何ト思ヒ反シテ。懺悔ノ爲ニ光明真言ノ法ヲ修スルニ。強キ指ヲ以テ額ヲ押カ如クニテ。身毛豎テ恐シケレバ。一

續鑛石集下本

一ニハ宰塔波ヲ疎略ニセル僧現罰ノ事

備後二一僧アリ慳貪放逸ナリ。檀那ヨリ塔波ヲ持參スル時ハ。長ケレバ其ノ本ヲ切テ縁脚トシ。或ハ漏浴ノ火ニ燒ク。惡行積重テ大病ヲ受。頸癰ト云物生ジテ浮腫シ。膿血流レ出ヅ。其臭穢不淨苦痛逼切言語ニ述ガタシ。膏藥ヲ點レドモ効シナク。内ヨリ糞蠅飛出ヅ。終ニ頭骨腐リ落テ死ス。現ニ見タル人ノ物語リナリ。制底ハ大日弥勒ノ三摩耶形ナリ。常ニ切取漫リニ用ルハ。出佛身血ノ罪。五逆罪ノ一ナレバ。現罰ヲ蒙リシモ理リナリ。世ニ無慙愚癡ノ人アリ。率都婆ヲ以テ籬籬トシ。甚シキハ板鋪ノ破レタルヲ補ヒ。真言ヲ書タル故紙經文等ヲ以テ。壁ノ腰張トシ。澀帚トシ。或ハ火中ニ投スル者アリ。是

續鑛石下本

又五逆罪ナリ。サヤウノ反故ノ何トモ弁ベキ處ナキハ。淨處ニ埋カ

又ハ濟度利生ノ大悲ニ住シ。大河ニ流シ。池中ニ入レバ。水中ノ有情罪障消滅シテ苦趣ヲ脱ス。是モ慈濟ノ心ナク。只棄捨ノ心ニテ擲ハ大罪ナルベシ。欽ザルベケンヤ○又紀州ニ一僧アリ。老僧隱居ノ後入院シテ。老僧ハ寺持疎畧ナリ。不掃除ナリトテ。新ニ修葺ヲ加ヘ。墓處ノ率塔波ヲケヅリ。棚ヲ鉤リ桶柿トシ縁脚トス。時ニ其棚桶等ムチノト鳴聲頻ナリ。此僧何トヤラン恐シク。若ハ率塔波ノ崇ナランカト思ヒ。懺悔スレドモ其鳴聲少モ不レ止。可畏コト限リナシ。住持モナリガタカラシ。退院セバヤト思ヒシカ。入院シテ後日數モナキニ退院スルモ。他人ノ嘲リ如何ト思ヒ反シテ。懺悔ノ爲ニ光明真言ノ法ヲ修スルニ。強キ指ヲ以テ額ヲ押カ如クニテ。身毛豎テ恐シケレバ。一

心ニ懺悔シテ。已後惡事ヲナサジト祈誓シ。柵ヲモ取桶ヲモ破リテ。本ノ墓處ニ納メ。大率都婆ヲ建立シテ。至心ニ懺悔シ修法セシカバ。額ヲ押コトモ去リ。柵桶ノ鳴モ靜リヌト。人ニ向テ發露シキ。此僧ハ賢クテ早ク改悔セシ故ニ。無間ノ重苦ヲ脱レタルモノナリ。カヤウノ現見ノ事多キニ。惡行ヲ止ザルハ寔ニ哀ムベキカナ

二二八大神宮御利生ノ事

元祿中ニ諸人多ク參宮ス。拔參リトテ。童男童女羣ヲ成。都鄙ノ人ノ心此度參ラザレバ。時ヲ失フト思ヒ。主人アル者モ多クハ暇ヲ乞フズシテ參宮スルニ別事ナシ。出雲國ニ一リノ豪強ノ士アリ。僕アリ暇ヲ乞ハスレテ諸人ト共ニ參宮ス。主人聞テ大ニ瞋ルトイヘドモ。追手ヲカクベキヤウモナシ。然ルニ三十餘日ヲ過テ僕下向シヌ。主人サラヌ體ニ

續鑛石下本

二

持ナシ縁ノ傍ニ呼手討テシタリケル。サテ屍骸ヲ親類ニ送りテ葬ラシム。親類悲ミ歎クトイヘドモ甲斐ナシ。又五三日ヲ過テ僕歸リ來リテ。御許シモナキニ參宮仕ルノ義。御慈悲ヲ以テ御免下サルベシト云。主人ヲ始メ家内ノ者共驚クコト限リナシ。サテ親類ヲ召テ墓ヲ改メシムルニ。屍骸ハナクテ。御被ヲ二ツニ切テ埋メタルヲ。武士孟賁樊噲ガ勇アリトイヘドモ。此不思議ヲ見テ感涙ヲ流シ。深ク大神宮ニ懺悔申上テ信心ヲ生ゼリ。此事近國ニ隱レナケレバ。傳ヘ聞ク諸人大大神宮ヲ信仰シ奉ルコト。日日ニ增長セリトカヤ。神明ノ加護神變誰カ疑ヲ生ズベケンヤ。又同國佐陀ノ神官ノ母。大病ヲ受テ百療驗シナク。イカハセント深ク悲ミケルニ。或夜ノ夢ニ明神枕上ニ立テ。一首ノ和歌ヲ詠シ玉ヘリ。賢サハ神ゾ知ランユウダスキ。カケ

心ニ懺悔シテ。已後惡事ヲナサジト祈誓シ。柵ヲモ取桶ヲモ破リテ。本ノ墓處ニ納メ。大率都婆ヲ建立シテ。至心ニ懺悔シ修法セシカバ。額ヲ押コトモ去リ。柵桶ノ鳴モ靜リヌト。人ニ向テ發露シキ。此僧ハ賢クテ早ク改悔セシ故ニ。無間ノ重苦ヲ脱レタルモノナリ。カヤウノ現見ノ事多キニ。惡行ヲ止ザルハ寔ニ哀ムベキカナ

二二八大神宮御利生ノ事

元祿中ニ諸人多ク參宮ス。拔參リトテ。童男童女羣ヲ成。都鄙ノ人ノ心此度參ラザレバ。時ヲ失フト思ヒ。主人アル者モ多クハ暇ヲ乞フズシテ參宮スルニ別事ナシ。出雲國ニ一リノ豪強ノ士アリ。僕アリ暇ヲ乞ハスレテ諸人ト共ニ參宮ス。主人聞テ大ニ瞋ルトイヘドモ。追手ヲカクベキヤウモナシ。然ルニ三十餘日ヲ過テ僕下向シヌ。主人サラヌ體ニ

續鑛石下本

二

持ナシ縁ノ傍ニ呼手討ニゾシタリケル。サテ屍骸ヲ親類ニ送りテ葬ラシム。親類悲ミ歎クトイヘドモ甲斐ナシ。又五三日ヲ過テ僕歸リ來リテ。御許シモナキニ參宮仕ルノ義。御慈悲ヲ以テ御免下サルベシト云。主人ヲ始メ家内ノ者共驚クコト限リナシ。サテ親類ヲ召テ墓ヲ改メシムルニ。屍骸ハナクテ。御被ヲ二ツニ切テ埋メタルナリ。武士孟賁樊噲ガ勇アリトイヘドモ。此不思議ヲ見テ感涙ヲ流シ。深ク大神宮ニ懺悔申上テ信心ヲ生ゼリ。此事近國ニ隱レナケレバ。傳ヘ聞ク諸人大大神宮ヲ信仰シ奉ルコト。日日ニ增長セリトカヤ。神明ノ加護神變誰カ疑ヲ生ズベケンヤ。又同國佐陀ノ神官ノ母。大病ヲ受テ百療驗シナク。イカハセント深ク悲ミケルニ。或夜ノ夢ニ明神枕上ニ立テ。一首ノ和歌ヲ詠シ玉ヘリ。賢サハ神ゾ知ランユウダスキ。カケ

④下本 02ウ

テ祈ノ叶ハザラメヤトアリクト告玉ヘリ。神主平生至孝ナレバ神勅アリガタク思ヒ。今マデ神ニ祈ラザルコトヲ千悔シ。急ニ供物ヲ調ヘ祈禱シケレバ。母ノ病程ナク平愈セリ。神主大ニ悦ビ二日ノ間二百首ノ歌ヲ詠ジテ。神恩ヲ報シ奉リケル。諸人は孝感ナルコトヲ知テ。羨ミ貴ミケリ。唯惜ムラクハ和歌ヲ獻ゼンヨリハ。僧ヲ請ジ大般若經ヲ轉讀セシメ。自ラハ中臣ノ被ヲ誦ジテ法樂ニ擬センハシカジトゾ思ヒケル。佐陀明神ハ即チ服狹雄ノ尊ナリ

三三ハ亡者人ニ託シテ巡禮スル事

紀州那賀郡荒川村ニ一人アリ。天和中ニ下人稻ヲ偷ミ取レルヲ瞋テ打殺ス。然ルニ享保七年七月下旬ニ。津田作之丞ト云者。井ノ邊リニ大ナル蛇出タルヲ。佃子五郎吉ト云者見テ云ケルハ。

●續鑛石下木

兒童カ見バ打擲シテ苦シムベシ。早く本ノ穴ニ還入ルベシトテ。枅ニテ數ノ中ニ投入テ去ル。暫クアツテ頻リニ戰慄テ大熱出テ口走テ曰ク。我ハ四十年前ニ殺レタル傳右衛門ナリ。久ク蛇身ヲ受ケテ此井ノ邊ニ棲リ。八月十二日ハ我カ命日ナリ。罪障消滅脱苦得樂ノ爲。三十三所ノ靈場ヲ巡禮シテクレヨト云。五郎吉カ妻詰テ曰ク。其方ハ不理屈ノ者ナリ。檀那ノ屋敷ニ住ナラバ。檀那ヨリ恨ハアルベキニ。咎ナキ五郎吉ニ託スルコトハ何ゾヤ。靈ノ曰ク檀那ハ恐レ多シ是非ニ汝ヲ頼ム。熱湯ヲ飲セヨ。水ハ腥シト云テ食物モ平生ノ一倍餐ケリ。早く巡禮ニ出ヨ。家ヲダニ出ナバ。同行ハ多カルベキゾト云テ不止。作之丞此ヲ聞テ。設ヒ亡者ノ願ニアラズトモ巡禮ハ善事ナリ。早く思立トテ家ヲ出シケレバ。三十三所悉ク札

テ祈ノ叶ハザラメヤトアリクト告玉ヘリ。神主平生至孝ナレバ。神勅アリガタク思ヒ。今マデ神ニ祈ラザルコトヲ千悔シ。急ニ供物ヲ調ヘ祈禱シケレバ。母ノ病程ナク平愈セリ。神主大ニ悦ビ二日ノ間二百首ノ歌ヲ詠ジテ。神恩ヲ報シ奉リケル。諸人は孝感ナルコトヲ知テ。羨ミ貴ミケリ。唯惜ムラクハ和歌ヲ獻ゼンヨリハ。僧ヲ請ジ大般若經ヲ轉讀セシメ。自ラハ中臣ノ被ヲ誦ジテ法樂ニ擬センハシカジトゾ思ヒケル。佐陀明神ハ即チ服狹雄ノ尊ナリ

三三ハ亡者人ニ託シテ巡禮スル事

紀州那賀郡荒川村ニ一人アリ。天和中ニ下人稻ヲ偷ミ取レルヲ瞋テ打殺ス。然ルニ享保七年七月下旬ニ。津田作之丞ト云者ノ。井ノ邊リニ大ナル蛇出タルヲ。佃子五郎吉ト云者見テ云ケルハ。

●續鑛石下木

兒童カ見バ打擲シテ苦シマシムベシ。早く本ノ穴ニ還入ルベシトテ。枅ニテ數ノ中ニ投入テ去ル。暫クアツテ頻リニ戰慄テ大熱出テ。口走テ曰ク。我ハ四十年前ニ殺レタル傳右衛門ナリ。久ク蛇身ヲ受ケテ此井ノ邊ニ棲リ。八月十二日ハ我カ命日ナリ。罪障消滅脱苦得樂ノ爲。三十三所ノ靈場ヲ巡禮シテクレヨト云。五郎吉カ妻詰テ曰ク。其方ハ不理屈ノ者ナリ。檀那ノ屋敷ニ住ナラバ。檀那ニコソ恨ハアルベキニ。咎ナキ五郎吉ニ託スルコトハ何ゾヤ。靈ノ曰ク檀那ハ恐レ多シ是非ニ汝ヲ頼ム。熱湯ヲ飲セヨ。水ハ腥シト云テ食物モ平生ノ一倍餐ケリ。早く巡禮ニ出ヨ。家ヲダニ出ナバ。同行ハ多カルベキゾト云テ不止。作之丞此ヲ聞テ。設ヒ亡者ノ願ニアラズトモ巡禮ハ善事ナリ。早く思立トテ家ヲ出シケレバ。三十三所悉ク札

ヲ納メ。美濃ノ谷汲ニ至テヨリ。水ノ腥キコトモナク。熱湯ヲモ不
飲。氣色快然ニテ家歸り來リヌ。是讚州植松權右カ靈ノ來
リ託シテ。追福回向ヲ願ヒシニ同ジ。サテ小蛇雞犬ノ類マデモ同ク
佛性ヲ具ヘタレバ。瞋罵シ打擲スル時ハ。大ニ悲願ニ背クベシ。明慧上
人ハ。狗子ヲ跨越玉ヒテ。若ヤ過去ノ父母ニテモヤアランカト。立歸テ
拜シ玉フトイヘリ。○高野ニ一僧アリ。平生犬ヲ愛シテ食物ヲ與フ。
此犬老テ毛見苦ク常ニ臥シテ起ズ。老僧倍不便ニ思ハレ。弟子ニ
命ジテ日日ニ食ヲ與ヘシム。弟子甚厭ヒ憎ミテ。穴ヲ掘リ埋ミ殺ス。
其人二時バカリヲ經テ。即チ犬ノ如クニ成。手足ニテ匍匐回リ。ク
ワン／＼ト吠テ。食物ヲモロサシ著テ食ヒ糞ヲ食フ。サテ廿日バカリ
ヲ經テ死シヌ。諸人皆現罰ナルコトヲ知テ。恐レズト云コトナシ。○又

●續鑛石下本

四

河内國上田村ニ一ノ癡豎アリ。甚ダ犬ヲ憎ミ非理ニ打殺シケレバ。
頓テ犬ノ真似ヲシテ匍匐回リ。糞ヲ尋テ食ヒ程ナク死シヌ。恐ルベシ
ク。況ヤ狗ハ能ク人ノ恩ヲ知ル。守屋ガ臣萬ガ狗久下小次郎ガ狗
ノ恩ヲ知リ。人ノ語ヲ解シタルコト。傳記ニ載ルトコナリ。故ニ人トシテ恩
ヲ知サル者ヲ。狗ヨリモ劣レリト云トカヤ。江戸ノ人ハ目黒ノ不動ノ
使者ナリトテ。食物ヲ與ヘ。高野山ニハ明神ノ使者ナリトテ愛スル
人多シ。住山ノ僧ノ身トシテ狗ヲ殺ハ。大ニ理ニ背ルニアラズヤ。蟻蠅
蚊虻スラ害スベカラズ。況ヤ狗ヲ殺シテ。豈現罰ヲ蒙ラサルベケンヤ
。四ニハ光明真言種々利益ノ事

備後西山寺ノ近處ニ一人アリ。一子アリ。十八九ノ比ヨリ兩眼盲ケ
レバ責テハ後世助ラント思ヒ。西山寺ニ往テ。光明真言ヲ授リテ。

ヲ納メ。美濃ノ谷汲ニ至テヨリ。水ノ腥キコトモナク。熱湯ヲモ不
飲。氣色快然ニテ家歸り來リヌ。是讚州植松權右カ靈ノ來
リ託シテ。追福回向ヲ願ヒシニ同ジ。サテ小蛇雞犬ノ類マデモ同ク
佛性ヲ具ヘタレバ。瞋罵シ打擲スル時ハ。大ニ悲願ニ背クベシ。明慧上
人ハ。狗子ヲ跨越玉ヒテ。若ヤ過去ノ父母ニテモヤアランカト。立歸テ
拜シ玉フトイヘリ。○高野ニ一僧アリ。平生犬ヲ愛シテ食物ヲ與フ。
此犬老テ毛見苦ク常ニ臥シテ起ズ。老僧倍不便ニ思ハレ。弟子ニ
命ジテ日日ニ食ヲ與ヘシム。弟子甚厭ヒ憎ミテ。穴ヲ掘リ埋ミ殺ス。
其人二時バカリヲ經テ。即チ犬ノ如クニ成。手足ニテ匍匐回リ。ク
ワン／＼ト吠テ。食物ヲモロサシ著テ食ヒ糞ヲ食フ。サテ廿日バカリ
ヲ經テ死シヌ。諸人皆現罰ナルコトヲ知テ。恐レズト云コトナシ。○又

●續鑛石下本

四

河内國上田村ニ一ノ癡豎アリ。甚ダ犬ヲ憎ミ非理ニ打殺シケレバ。
頓テ犬ノ真似ヲシテ匍匐回リ。糞ヲ尋テ食ヒ程ナク死シヌ。恐ルベシ
ク。況ヤ狗ハ能ク人ノ恩ヲ知ル。守屋ガ臣萬ガ狗久下小次郎ガ狗
ノ恩ヲ知リ。人ノ語ヲ解シタルコト。傳記ニ載ルトコナリ。故ニ人トシテ恩
ヲ知サル者ヲ。狗ヨリモ劣レリト云トカヤ。江戸ノ人ハ目黒ノ不動ノ
使者ナリトテ。食物ヲ與ヘ。高野山ニハ明神ノ使者ナリトテ愛スル
人多シ。住山ノ僧ノ身トシテ狗ヲ殺ハ。大ニ理ニ背ルニアラズヤ。蟻蠅
蚊虻スラ害スベカラズ。況ヤ狗ヲ殺シテ。豈現罰ヲ蒙ラサルベケンヤ
。四ニハ光明真言種々利益ノ事

備後西山寺ノ近處ニ一人アリ。一子アリ。十八九ノ比ヨリ兩眼盲ケ
レバ責テハ後世助ラント思ヒ。西山寺ニ往テ。光明真言ヲ授リテ。

一七日断食シテ本尊千手観音ヲ前ニテ念誦シケルニ。六日
ニ至テ兩眼頻リニ痛ミ。七日ノ朝初テ燈明ノ光見ケルマ。大ニ悅
ビ倍信心ヲ凝シテ唱ヘケルホドニ。八日ニハ昔ノ如ク明目ニナリス。光明
真言ノ功德。大悲觀音ノ御利生ナリトテ。弥信心ヲ増進シ。父ノ
家ヲ續テ里正タリ近キ事ナレバ。近村ノ人普ク知レリ。正シキ事ナリ
○又同國田嶋ノ醫王寺ノ檀那アリ。子細アリテ一向宗トナリケ
レバ。程ナク癩病ヲ受ク。彼者若ハ改宗ノ罰ナランカト悔ミ。又真言
宗トナリ。勤テ光明真言ヲ念誦シケレバ。業病モ漸クニ平愈セリト。
智度論ニ云旨目ト癩病トハ。業病ナルヲ以テ。世間ノ醫師ノ療治ス
ルコト叶ハズ。但シ如意寶珠ヲ以テ照映時ハ。眼明ニ癩病モ頓ニ平
愈ストイヘリ。盲目癩病ハ過去ノ誹謗正法ノ餘殃ナリ。然ルニ

●續鑛石下本

五

光明真言ハ如意寶珠ノ如クナレバ。四重八重五無間罪。謗方等
經一闡提等ノ重罪ヲモ。刹那ニ消滅スレバナリ。又ノ句アルハ。是
如意寶珠ナリ。故ニ一切ノ願望成就セズト云コトナシ○又同國栗
原ノ明光寺ノ檀家ニ一人アリ。俄ニ癩病トナル。彼者悲ミ歎イテ
願ヲ發シ。大師ニ歸依シ。四國遍禮シテ家ニ歸來レバ。病即チ瘥リス。
四國遍禮ハ小行ナリトイヘドモ。七八十日ノ間。潔齋清淨ニシテ。大
師ニ歸依シ奉リ。光明真言ヲ誦ズルナレバ。罪障消滅シ業病平
愈セルコト尤モナリ○又讚州高松ニ一女アリ。癩癩ノ病アリ。百療効
トナシ。寶永三年三月ニ光明真言ヲ授リ肉食ヲ断シ。毎日三百
遍ツ、誦ズルコト一年セシカバ。即チ平愈シヌ。又一僧アリ久シク癩癩
ヲ煩フ。悲ミテ大佛頂陀羅尼ヲ誦ズルコト一萬八千遍ニ滿ジケレバ。

一七日断食シテ。本尊千手観音ノ前ニシテ念誦シケルニ。六日
ニ至テ兩眼頻リニ痛ミ。七日ノ朝初テ燈明ノ光見ケルマ。大ニ悅
ビ倍信心ヲ凝シテ唱ヘケルホドニ。八日ニハ昔ノ如ク明目ニナリス。光明
真言ノ功德。大悲觀音ノ御利生ナリトテ。弥信心ヲ増進シ。父ノ
家ヲ續テ里正タリ近キ事ナレバ。近村ノ人普ク知レリ。正シキ事ナリ
○又同國田嶋ノ醫王寺ノ檀那アリ。子細アリテ一向宗トナリケ
レバ。程ナク癩病ヲ受ク。彼者若ハ改宗ノ罰ナランカト悔ミ。又真言
宗トナリ。勤テ光明真言ヲ念誦シケレバ。業病モ漸クニ平愈セリト。
智度論ニ云旨目ト癩病トハ。業病ナルヲ以テ。世間ノ醫師ノ療治ス
ルコト叶ハズ。但シ如意寶珠ヲ以テ照映時ハ。眼明ニ癩病モ頓ニ平
愈ストイヘリ。盲目癩病ハ過去ノ誹謗正法ノ餘殃ナリ。然ルニ

●續鑛石下本

五

光明真言ハ如意寶珠ノ如クナレバ。四重八重五無間罪。謗方等
經一闡提等ノ重罪ヲモ。刹那ニ消滅スレバナリ。又ノ句アルハ。是
如意寶珠ナリ。故ニ一切ノ願望成就セズト云コトナシ○又同國栗
原ノ明光寺ノ檀家ニ一人アリ。俄ニ癩病トナル。彼者悲ミ歎イテ
願ヲ發シ。大師ニ歸依シ。四國遍禮シテ家ニ歸來レバ。病即チ瘥リス。
四國遍禮ハ小行ナリトイヘドモ。七八十日ノ間。潔齋清淨ニシテ。大
師ニ歸依シ奉リ。光明真言ヲ誦ズルナレバ。罪障消滅シ業病平
愈セルコト尤モナリ○又讚州高松ニ一女アリ。癩癩ノ病アリ。百療効
トナシ。寶永三年三月ニ光明真言ヲ授リ肉食ヲ断シ。毎日三百
遍ツ、誦ズルコト一年セシカバ。即チ平愈シヌ。又一僧アリ久シク癩癩
ヲ煩フ。悲ミテ大佛頂陀羅尼ヲ誦ズルコト一萬八千遍ニ滿ジケレバ。

病平愈スルトヲ得タリ。唯世人信心薄ガ故ニ利益ヲ蒙ルトコト運
シ。勇猛ニ願ヲ發シ至心ニ念誦セバ。何ノ病カ瘥ザラン。何ノ願カ満足
セザランヤ勉ヨヤク

五ニハ雲州神門郡金剛頂山弘法寺ノ大師靈驗ノ事

出雲國神門郡昔シ高祖化遊ノ處カ。神門寺ト云アリ。昔ハ密宗
ナリシガ。今ハ淨土宗ノ寺トナル。此寺ノ靈寶ハ大師御筆ノいろは
ナリ。昔ヨリ傳フ。大師伊勢ニ參籠シ玉フ時。天照大神ノ御告ア
ツテ。神代ノ文字四十七言ヲ。涅槃經ノ四句ノ文ノ意ニ依テ歌ヲ
造リ文字ヲ製セヨ。大日經王ノ所在ヲ示スベシト。大師神勅ヲ承
テいろはヲ製シ玉ヒ。大日本國久米ノ道場ノ塔利柱ヨリ。經王ヲ
感得シ玉フトイヘリ。此御真跡ノいろは神門寺ニアリ。並ニ尊圓

續鑛石下本

六

親王ノ御寫ノ本アリ。平生諸人ニハ寫ノ本ヲ拜マシムトイヘリ。如是因
緣厚キ國ナレバ。大師ノ靈驗頗ル多シ。古志村金剛頂山弘法寺ハ
高祖ノ開基ニテ。御影モ御自作ノ形像ナリト云傳享保六年ノ春
同郡奥多岐村ノ人久シク手痛ミテ自ラ帶スルコト叶ハズ。食物モ自
由ナラザレバ。種々養生ストイヘドモ効シナク。久シク捨置シガ三十二モ不
足シテ。片輪トナリ空ク暮スコトモ口惜ク思ヒ。二親ニ白シテ今一度
名醫ニモ見セ養生セバヤト思ヒ。古志村ニ玄竹ト云老醫アリケレバ。
是ヲ頼ミ藥ヲ服セントテ行ク。此者代々日蓮宗ナレバ。深信正直ノ者
ニテ。弘法寺ノ門前ヲ通ルニモ。常ニ低頭シテ南無大師遍照金
剛。罪障消滅シテ。病平愈セシメ玉ヘト歸命シケリ。サテ醫士ニ逢
テ手ノ痛ヲ告レバ。醫士ノ曰ク。多年ノ痼疾ナレバ。率尔ニハ平愈セ

病平愈スルコトヲ得タリ。唯世人信心薄ガ故ニ利益ヲ蒙ルトコト運
シ。勇猛ニ願ヲ發シ至心ニ念誦セバ。何ノ病カ瘥ザラン。何ノ願カ満足
セザランヤ勉ヨヤク

五ニハ雲州神門郡金剛頂山弘法寺ノ大師靈驗ノ事

出雲國神門郡昔シ高祖化遊ノ處カ。神門寺ト云アリ。昔ハ密宗
ナリシガ。今ハ淨土宗ノ寺トナル。此寺ノ靈寶ハ大師御筆ノいろは
ナリ。昔ヨリ傳フ。大師伊勢ニ參籠シ玉フ時。天照大神ノ御告ア
ツテ。神代ノ文字四十七言ヲ。涅槃經ノ四句ノ文ノ意ニ依テ歌ヲ
造リ文字ヲ製セヨ。大日經王ノ所在ヲ示スベシト。大師神勅ヲ承
テいろはヲ製シ玉ヒ。大日本國久米ノ道場ノ塔利柱ヨリ。經王ヲ
感得シ玉フトイヘリ。此御真跡ノいろは神門寺ニアリ。並ニ尊圓

續鑛石下本

六

親王ノ御寫ノ本アリ。平生諸人ニハ寫ノ本ヲ拜マシムトイヘリ。如是因
緣厚キ國ナレバ。大師ノ靈驗頗ル多シ。古志村金剛頂山弘法寺ハ
高祖ノ開基ニテ。御影モ御自作ノ形像ナリト云傳享保六年ノ春
同郡奥多岐村ノ人久シク手痛ミテ自ラ帶スルコト叶ハズ。食物モ自
由ナラザレバ。種々養生ストイヘドモ効シナク。久シク捨置シガ三十二モ不
足シテ。片輪トナリ空ク暮スコトモ口惜ク思ヒ。二親ニ白シテ今一度
名醫ニモ見セ養生セバヤト思ヒ。古志村ニ玄竹ト云老醫アリケレバ。
是ヲ頼ミ藥ヲ服セントテ行ク。此者代々日蓮宗ナレトモ。深信正直ノ者
ニテ。弘法寺ノ門前ヲ通ルニモ。常ニ低頭シテ南無大師遍照金
剛。罪障消滅シテ。病平愈セシメ玉ヘト歸命シケリ。サテ醫士ニ逢
テ手ノ痛ヲ告レバ。醫士ノ曰ク。多年ノ痼疾ナレバ。率尔ニハ平愈セ

ジトテ先藥六七貼調合シテ與フ。此者悲ミナガラ翌日又弘法寺ノ門前ヲ通ルニ。一心ニ禮拜シテ。願クハ大慈大悲我が苦患ヲ救ヒ玉ヘト祈リテ。二三町モ過ルニ。後ヨリ呼人アリ。願レハ香衣ヲ著玉ヘル高僧ナリ。何ノ御用ゾト云。僧ノ云ク。汝ハ不慮ニ臂ヲ損ジ久ク惱ム。不便ナリ。加持シテトラスベシトテ。痛手ヲ引延シ玉ヘハ。骨鳴リ身痛テ眩悶絶ス。暫ク有テ正氣トナリ。僧ヲ尋ミ。近處ノ人ニ問ドモ。左様ノ出家ハ此邊ヲ通ラズト云。アマリ不思議ニ思ヒ。疇昔ノ宿ニカヘリ僧ノ處ヲ問ベシト思ヒ。フト立ニ痛ミシ手足スキト平愈シテ壯健ニナリヌ。サテハ大師ノ我カ志ヲ憐ミ。加持シ玉フナメリト。涙ヲ流シテ喜ビ。幞子ヲ手ニ攜ヘテ宿ニ往キ。亭主ニ問バ。主人ノ曰ク公ハ日蓮宗ナレバ。信仰アルマジケレド。是ハ弘法大師ノ加持力ナルベシト云ニ付テ。兩度

續鑛石下本

七

ニテ拜シ祈願セシコトヲ思ヒ合セ骨髄ニ徹シテ有難ク思ヒ。弘法寺ヘ參詣シテ御禮申上テ家ニ歸リケレバ。父母大ニ悦ビ。大信心ヲ發シ。親子三人共ニ參詣シテ。御恩ヲ報謝シ奉リ。住持ニ拜謁シテ。四國遍禮シテ御恩ノ万一ヲ酬ヒ奉ラバヤト云。僧ノ曰ク。然ベシトイヘドモ。高野山ハ大師生身入定ノ山ナレバ。先參詣セラレト。仍テ享保六年ノ夏。父子共ニ高野ニ參リテ歸リヌ。此事近國ニカクレナケレバ。諸人渴仰シテ。弘法寺ニ參詣スル者甚多。皆願ニ隨テ衆病平愈シ。諸願成就セスト云コトナシ。但シ不信ノ者ハ驗ナシ。貴賤男女自佗宗ヲ擇ハズ。皆我慢ノ幢ヲ折。信仰ノ頭ヲ低ケレバ。檀施頗ル多ク。五間四面ノ堂ヲ建立シ。胎藏界ノ大日如來ヲ造立安置シ。寮舎等マデヲ造營ス。日日參詣ノ人多ク。或ハ通夜シ

ジトテ。先藥六七貼調合シテ與フ。此者悲ミナガラ翌日又弘法寺ノ門前ヲ通ルニ。一心ニ禮拜シテ。願クハ大慈大悲我が苦患ヲ救ヒ玉ヘト祈リテ。二三町モ過ルニ。後ヨリ呼人アリ。願レハ香衣ヲ著玉ヘル高僧ナリ。何ノ御用ゾト云。僧ノ云ク。汝ハ不慮ニ臂ヲ損ジ久ク惱ム。不便ナリ。加持シテトラスベシトテ。痛手ヲ引延シ玉ヘハ。骨鳴リ身痛テ眩悶絶ス。暫ク有テ正氣トナリ。僧ヲ尋ミヘズ。近處ノ人ニ問ドモ。左様ノ出

家ハ此邊ヲ通ラズト云。アマリ不思議ニ思ヒ。疇昔ノ宿ニカヘリ僧ノ處ヲ問ベシト思ヒ。フト立ニ痛ミシ手足スキト平愈シテ壯健ニナリヌ。サテハ大師ノ我カ志ヲ憐ミ。加持シ玉フナメリト。涙ヲ流シテ喜ビ。幞子ヲ手ニ攜ヘテ宿ニ往キ。亭主ニ問バ。主人ノ曰ク公ハ日蓮宗ナレバ。信仰アルマジケレド。是ハ弘法大師ノ加持力ナルベシト云ニ付テ。兩度

續鑛石下本

七

マデ拜シ祈願セシコトヲ思ヒ合セ。骨髄ニ徹シテ有難ク思ヒ。弘法寺ヘ參詣シテ御禮申上テ家ニ歸リケレバ。父母大ニ悦ビ。大信心ヲ發シ。親子三人共ニ參詣シテ。御恩ヲ報謝シ奉リ。住持ニ拜謁シテ。四國遍禮シテ御恩ノ万一ヲ酬ヒ奉ラバヤト云。僧ノ曰ク。然ベシトイヘドモ。高野山ハ大師生身入定ノ山ナレバ。先參詣セラレト。仍テ享保六年ノ夏。父子共ニ高野ニ參リテ歸リヌ。此事近國ニカクレナケレバ。諸人渴仰シテ。弘法寺ニ參詣スル者甚多。皆願ニ隨テ衆病平愈シ。諸願成就セスト云コトナシ。但シ不信ノ者ハ驗ナシ。貴賤男女自佗宗ヲ擇ハズ。皆我慢ノ幢ヲ折。信仰ノ頭ヲ低ケレバ。檀施頗ル多ク。五間四面ノ堂ヲ建立シ。胎藏界ノ大日如來ヲ造立安置シ。寮舎等マデヲ造營ス。日日參詣ノ人多ク。或ハ通夜シ

④下本07ウ

或ハ香花燈明ヲ供養ジテ。寶号ヲ唱ル者不絶。此予カ前子徳ヲ舉ル中ノ千歳炬赫ノ一ナリ。諸國ニ此例多カルベシトイヘドモ。人傳ルコト少ナレバ。今ハ一二ヲ記スルノミ。大師ハ即身成佛シ玉ヒ。今ニ現在シ玉フナレバ。分身無量ニシテ。十方世界ニ於テ。無量ノ衆生ヲ濟度シ玉フモノナリ。信アラシムハ必ズ高野ニ參詣シテ。值遇ノ因縁ヲ結ブベシ。昔ハ白河院堀河院鳥羽ノ法皇等ハ。天野ヨリ奥ノ院マデ玉趾ヲ運ビ。一步三禮ニシテ。參詣シ玉フトカヤ。天子既ニカクノ如シ。今日ノ庶人何ゾ參詣セサランヤ。又同郡渡橋村ノ觀音寺ハ。禪宗ニテ。雲州三十三所ノ隨一ナリ。靈驗無雙ノ觀音ノ尊像アリ。寛文中ニ大守鷹野ニ出玉ヒケルニ。秘藏ノ鷹ソレタリ。折節觀音寺ノ門前ニ暫ク息ヒテ。心中ニ祈誓シ玉ハク。大薩埵此鷹

續鑛石下本

ヲ戻シ玉ハラバ。破壊セル堂ヲ修復スベシト。等閑ニ念ゼラル、ニ。鷹スナハチ飛ビ歸ル。大守大ニ悦テ歸リ。程ナク東都ニ參勤故ニ。彼堂修復ノ事モ打忘レ玉フ。或夜夢ニ氣高キ僧ノ威儀嚴肅ナルガ。枕上ニ來リ告テ曰ク。我ハ雲州ノ觀音寺ヨリ來レリ。約束ノ如ク何ゾ速ニ我堂ヲ修復セザルヤ。若運引セバ必ズ災殃アルベシト。夢中ニ大守僧ニ問ク。貴僧ハ何方ニ住スルヤ。僧ノ曰ク。伊丹堂ニ住ストアルニ夢ハ寤ヌ。サテ去冬鷹獵ノ時ノ願ヲ思ヒ出シ。急ギ出テ入テ走ラシメテ。役人ニ課セテ新ニ觀音堂ヲ造營シ。燈明田ヲ寄附セラレテ。今ニ大守ヨリノ修理所ナリ。サテ歸城ノ後。觀音堂ニ詣シテ。因ミニ伊丹堂ハ何ゾト問玉フニ。古キ小堂アリ。本尊ハ石地藏ニテ。御首モ落テアルヲ拜シテ。夢ニ見シハ相好端嚴ノ僧ナリ

或ハ香花燈明ヲ供養ジテ。寶号ヲ唱ル者不絶。此予カ前二十徳ヲ舉ル中ノ千歳炬赫ノ一ナリ。諸國ニ此例多カルベシトイヘドモ。人傳ルコト少ナレバ。今ハ一二ヲ記スルノミ。大師ハ即身成佛シ玉ヒ。今ニ現在シ玉フナレバ。分身無量ニシテ。十方世界ニ於テ。無量ノ衆生ヲ濟度シ玉フモノナリ。信アラシムハ必ズ高野ニ參詣シテ。值遇ノ因縁ヲ結ブベシ。昔ハ白河院堀河院鳥羽ノ法皇等ハ。天野ヨリ奥ノ院マデ玉趾ヲ運ビ。一步三禮ニシテ。參詣シ玉フトカヤ。天子既ニカクノ如シ。今日ノ庶人何ゾ參詣セサランヤ。又同郡渡橋村ノ觀音寺ハ。禪宗ニテ。雲州三十三所ノ隨一ナリ。靈驗無雙ノ觀音ノ尊像アリ。寛文中ニ大守鷹野ニ出玉ヒケルニ。秘藏ノ鷹ソレタリ。折節觀音寺ノ門前ニ暫ク息ヒテ。心中ニ祈誓シ玉ハク。大薩埵此鷹

續鑛石下本

ヲ戻シ玉ハラバ。破壊セル堂ヲ修復スベシト。等閑ニ念ゼラル、ニ。鷹スナハチ飛ビ歸ル。大守大ニ悦テ歸リ。程ナク東都ニ參勤故ニ。彼堂修復ノ事モ打忘レ玉フ。或夜夢ニ氣高キ僧ノ威儀嚴肅ナルガ。枕上ニ來リ告テ曰ク。我ハ雲州ノ觀音寺ヨリ來レリ。約束ノ如ク何ゾ速ニ我堂ヲ修復セザルヤ。若運引セバ必ズ災殃アルベシト。夢中ニ大守僧ニ問ク。貴僧ハ何方ニ住スルヤ。僧ノ曰ク。伊丹堂ニ住ストアルニ夢ハ寤ヌ。サテ去冬鷹獵ノ時ノ願ヲ思ヒ出シ。急ギ出テ入テ走ラシメテ。役人ニ課セテ新ニ觀音堂ヲ造營シ。燈明田ヲ寄附セラレテ。今ニ大守ヨリノ修理所ナリ。サテ歸城ノ後。觀音堂ニ詣シテ。因ミニ伊丹堂ハ何ゾト問玉フニ。古キ小堂アリ。本尊ハ石地藏ニテ。御首モ落テアルヲ拜シテ。夢ニ見シハ相好端嚴ノ僧ナリ

シカ。哀レ石地藏ニテ在ケルカ。ハルく東都マデ御出。御太儀千方ナリトテ。一間四面ノ瓦葺ノ堂ヲ造リ安置シ玉ヒ。今ニ至ルマテ大守ヨリ修覆ヲ加ヘ玉フ堂ナリ。信心少シトイヘドモ。假ニモ佛菩薩ヲ念ジ奉レバ。龍ノ水ヲ得。虎ノ山ニ倚ガ如クシテ。衆生ヲ濟度シ玉フハ寔ニ地藏觀音ノ大悲闡提ノ故ナリ。況ヤ眞實ノ淨信ヲ凝シテ祈誓セン人ハ。何レノ所願カ滿ザルベキヤ勉ヨヤク

六三八阿波國不朽物語ノ事

阿州ニ一士アリ。三百石ノ祿ヲ食ム。三子アリ。曾子ヲ小太郎ト云。十一二歳ノ比ヨリ。性情弱ニシテ姪ヲ好ミ才能ナシ。一親此ヲ疎ジテ我家ヲ續者ニアラズトテ愛セズ。十七歳万治二年。九月下旬ヨリ。虚痢ヲ患ヒ。十月廿三日ニ卒ス。病中三十餘日父母病ヲ瞻ズ。

續鑛石下本

九

遙ニ下レル荒屋ニ卧シム。醫師ハ叔母婿ナリ。江庵ト号ス。兩親ノ惜ザルヲ知テ只今息絶ルマテ善クト云テ。藥劑ヲ改メズ。死シテ淨智寺ノ墓ニ葬リ。心月閑西信士トテ。今ニ石塔アリ。近藤長八郡新兵衛ハ譜代ノ士アリ。予面會郡新兵衛後ニ郡兵衛ト云ガ口説ヲ聞キ。且ツ亡者ノ遺囑ナルヲ以テ此書ニ記ス。披見ノ人疑ヒ嗤ルコトナカレ。寛文七年正月十九日。父ノ家ノ婢式ト云者。風邪ヲ患ヒ。病久シテ食ヲ絶ス。同二月十七日。病女水ヲ乞ニ。水ヲ與レバ驟テ故キ水ナリト云テ不飲。新ニ井ノ水ヲ汲テ飲シムルニ即飲。十八日ノ暮ニ及テ又水ヲ乞。病女ガ母來テ水ハ毒ナリ湯ヲ飲ト云ニ。何汝カ云コトゾ余カ飲ナリト訶ル。其聲女ノ音韻ニアラザレバ。母大ニ怪ム。時ニ俯人水ヲ與フ。是人ノ殘水ナリトテ不飲。又同シ水ヲ新水ナリトテ

シカ。哀レ石地藏ニテ在ケルカ。ハルく東都マデ御出。御太儀千方ナリトテ。一間四面ノ瓦葺ノ堂ヲ造リ安置シ玉ヒ。今ニ至ルマテ大守ヨリ修覆ヲ加ヘ玉フ堂ナリ。信心少シトイヘドモ。假ニモ佛菩薩ヲ念ジ奉レバ。龍ノ水ヲ得。虎ノ山ニ倚ガ如クシテ。衆生ヲ濟度シ玉フハ寔ニ地藏觀音ノ大悲闡提ノ故ナリ。況ヤ眞實ノ淨信ヲ凝シテ祈誓セン人ハ。何レノ所願カ滿ザルベキヤ勉ヨヤク

六三八阿波國不朽物語ノ事

阿州ニ一士アリ。三百石ノ祿ヲ食ム。三子アリ。曾子ヲ小太郎ト云。十一二歳ノ比ヨリ。性情弱ニシテ姪ヲ好ミ才能ナシ。一親此ヲ疎ジテ我家ヲ續者ニアラズトテ愛セズ。十七歳万治二年。九月下旬ヨリ。虚痢ヲ患ヒ。十月廿三日ニ卒ス。病中三十餘日父母病ヲ瞻ズ。

續鑛石下本

九

遙ニ下レル荒屋ニ卧シム。醫師ハ叔母婿ナリ。江庵ト号ス。兩親ノ惜ザルヲ知テ只今息絶ルマテ善クト云テ。藥劑ヲ改メズ。死シテ淨智寺ノ墓ニ葬リ。心月閑西信士トテ。今ニ石塔アリ。近藤長八郡新兵衛ハ譜代ノ士アリ。予面會郡新兵衛後ニ郡兵衛ト云ガ口説ヲ聞キ。且ツ亡者ノ遺囑ナルヲ以テ此書ニ記ス。披見ノ人疑ヒ嗤ルコトナカレ。寛文七年正月十九日。父ノ家ノ婢式ト云者。風邪ヲ患ヒ。病久シテ食ヲ絶ス。同二月十七日。病女水ヲ乞ニ。水ヲ與レバ驟テ故キ水ナリト云テ不飲。新ニ井ノ水ヲ汲テ飲シムルニ即飲。十八日ノ暮ニ及テ又水ヲ乞。病女ガ母來テ水ハ毒ナリ湯ヲ飲ト云ニ。何汝カ云コトゾ余カ飲ナリト訶ル。其聲女ノ音韻ニアラザレバ。母大ニ怪ム。時ニ俯人水ヲ與フ。是人ノ殘水ナリトテ不飲。又同シ水ヲ新水ナリトテ

與ルニ敢テ不飲。堪カテ新ニ井水ヲ汲テ飲シムルニ悦ンテ飲ヌ。朋輩不審ク思ヒ。魚ヲ炙リテ口ニ入ルニ。齒ヲ切りテ不食。大ニ唾吐シテ。近藤長八針ニ心得タレバ。此病ハ針セバヨカルベシト云ニ。大ニ嫌テ余ニ勿立ゾト。時ニ長八問テ曰ク。汝ハ誰ソ。病女ノ曰ク。汝ハ近藤長八ナ。余ハ此家ノ嫡子小太郎ナリ。長八聞吾存生ノ時。兩親無情アリ玉ヒ。其恨少カラズ。若年ニテ死シ。故郷戀シサニ。一兩日サキヨリ此病人ニ託シテ。知シメガ爲ニ清水ヲ乞ニ。家来共故水ヲ與ヘ。刺ヘ腥キ肉ヲ余カクニ入ル。不届千万ナリトテ大ニ暈リ。涙雨ノ如クナル。其音便全ク亡者閑西ノ聲ナリ。郡新兵衛後ニ在テ閑西公ノ御出カト耳語ヲ。病女即チ聞テ。新兵衛久イナドアリケレバ。能ク御出候ヘ。久クニテ御聲ヲ承リ忝シ。香ヲ燒キ

續鑛石下本

申スベシトテ。即チ香ヲ燒クニ。奇麗ナリ満足ナリ。新兵キケ吾存生ノ間ハ。一日片時モ嬉シキ事ナカリキ。病中療治疎畧ニシテ。只今息絶ルニモ。江菴ノヨシト申サレ。實ニ恨ミ深シ。死後ニモ兩親サノミ悲歎モナシ。此ノ上ハ金ノ堂ヲ造リ玉フトモ。更ニ満足ナラズトテ。落涙雨ノ如シ。寔ニ罪深ク痛シサ限ナシ。其時母走り出イカニ閑西カト白レケレバ。只今ニテ猛ク暈ラレシカ。氣色弱トシテ母様久シク候ト。小音ニテ何ノ詞モナク。漸久ク啼泣シテ。イカニ母様私存生ノ間ハ。何ノ思出モナク。剩サハ早世シテ。久ク兩親ニ逢奉ラズ。戀サノアマリ此度參リタリトイヘドモ。互ニ顔ヲ見奉ルコト叶ハズ。唯聲バカリヲ聞ク。胸ヲ破バカリニ悲シトイヘドモ。生ヲ替レバ互ニ面ヲ見コト叶ハズ。然レドモ互ニ言ヲ通ハシ候事ノミ嬉

與ルニ敢テ不飲。堪カテ新ニ井水ヲ汲テ飲シムルニ悦ンテ飲ヌ。朋輩不審ク思ヒ。魚ヲ炙リテ口ニ入ルニ。齒ヲ切りテ不食。大ニ唾吐シテ。近藤長八針ニ心得タレバ。此病ハ針セバヨカルベシト云ニ。大ニ嫌テ余ニ勿立ゾト。時ニ長八問テ曰ク。汝ハ誰ソ。病女ノ曰ク。汝ハ近藤長八ナ。余ハ此家ノ嫡子小太郎ナリ。長八聞吾存生ノ時。兩親無情アタリ玉ヒ。其恨少カラズ。若年ニテ死シ。故郷戀シサニ。一兩日サキヨリ此病人ニ託シテ。知シメガ爲ニ清水ヲ乞ニ。家来共故水ヲ與ヘ。刺ヘ腥キ肉ヲ余カクニ入ル。不届千万ナリトテ大ニ暈リ。涙雨ノ如クナル。其音便全ク亡者閑西ノ聲ナリ。郡新兵衛後ニ在テ閑西公ノ御出カト耳語ヲ。病女即チ聞テ。新兵衛久イナドアリケレバ。能ク御出候ヘ。久クニテ御聲ヲ承リ忝シ。香ヲ燒キ

續鑛石下本

申スベシトテ。即チ香ヲ燒クニ。奇麗ナリ満足ナリ。新兵キケ吾存生ノ間ハ。一日片時モ嬉シキ事ナカリキ。病中療治疎畧ニシテ。只今息絶ルニモ。江菴ノヨシト申サレ。實ニ恨ミ深シ。死後ニモ兩親サノミ悲歎モナシ。此ノ上ハ金ノ堂ヲ造リ玉フトモ。更ニ満足ナラズトテ。落涙雨ノ如シ。寔ニ罪深ク痛シサ限ナシ。其時母走り出イカニ閑西カト白レケレバ。只今マテ猛ク暈ラレシカ。氣色弱トシテ母様久シク候ト。小音ニテ何ノ詞モナク。漸久ク啼泣シテ。イカニ母様私存生ノ間ハ。何ノ思出モナク。剩サハ早世シテ。久ク兩親ニ逢奉ラズ。戀サノアマリ此度參リタリトイヘドモ。互ニ顔ヲ見奉ルコト叶ハズ。唯聲バカリヲ聞ク。胸ヲ破バカリニ悲シトイヘドモ。生ヲ替レバ互ニ面ヲ見コト叶ハズ。然レドモ互ニ言ヲ通ハシ候事ノミ嬉

ク候トテ。涕泣更止ス。母ノ云ク。サテ來世三人如何ナル處ニ居
玉フヤ。亡者答テ曰ク。此世ヲ去テ往時ハ。伴フ人モナク。唯我獨
リハル。知ヌ冥路ヲ往程ニ。名殘惜サ。恐シサ言ニ述ガタシ。漸ク
釋迦如來ノ御前ニ參著ス。御堂ヲ拜ス。廣大ニシテ前ニ階ア
リ。數八十アリ。下ニ鐵中ニ三銅上五六白銀ナリ。部モ鋪板モ皆
白銀ナリ。釋尊ノ御長。常ノ人ノ一倍バカリニ拜ム。御顔少黒
色ニシテ御鬚アリ。御堂ノ軒ニ寶鈴瓔珞微風ニチンクト鳴聲
面白ク美クシク奇麗ナル粧。哀此ニ住バヤト思フ處ニ。佛ヨリ御使
リ。此階ヲ升リテ見ヨト。サテ此ヲ升ルニ。下ノ鐵階三重ヲ升リ。
中ノ銅ニ及ブ時踏スベリテ落ヌ。尔時又御使在テ汝ハ此ニ住ス
ルコトナラズ。地獄極樂へ往ヘシト。地獄極樂ト云處。サノミ惡キ處

續鑛石下本

ニアラズ。佛神ノ在ヌバカリナリ。仰ヲ蒙リ是非ナク御前ヲ立往
時ノ悲サ。死セル時ノ悲ニ百倍セリ。サテ地獄極樂ニ到リヌ。小堂
アリ。鉦ヲ敷ク。率都婆家ノ柱ナリ。是モ頗ル奇麗ナリ。故ニ率
都婆ノ木ハ太ク直ナルガ能ト云ナリ。私ニ云ク。是中有テ地獄ト淨土
トノカ。此世ニテ相知タル人ハ。冥土ニテモ逢ハ相知ル。但シ娑婆ノ
心ヲ其マニテ持行ハ善心ノ人ノ往ハ諸人敬ヒ。惡心ノ者ノ往ハ
何ナル高位高官ノ人モ。佛ノ御計ニテ否ト云コトナラズ。此佛黒色ト云
ハ三藏ノ説同
焔魔大王ヲ疑クハ。サテ來世ニ數多アリ。一ニハ極樂淨土。是ハ神々
チノ御坐目出タキ處ナリ。一ニハ極樂。二ニハ地獄極樂ナリ。釋尊ハ
極樂淨土ト極樂トノ境ニ御在ヌ。私ニ云極樂淨土ハ既ニ淨土ニ生セル人
住處極樂ハ必ズ往生スベキ人ノ追福ヲ
待ナカ地獄ノ數モ種々アリ。此世ニテ札ヤ守ヲ頸ニ挂タル者ハ。皆

ク候トテ。涕泣更止ス。母ノ云ク。サテ來世ニテハ如何ナル處ニ居
玉フヤ。亡者答テ曰ク。此世ヲ去テ往時ハ。伴フ人モナク。唯我獨
リハル。知ヌ冥路ヲ往程ニ。名殘惜サ。恐シサ言ニ述ガタシ。漸ク
釋迦如來ノ御前ニ參著ス。御堂ヲ拜スルニ。廣大ニシテ前ニ階ア
リ。數八十アリ。下ニ鐵中ニ三銅上五六白銀ナリ。部モ鋪板モ皆
白銀ナリ。釋尊ノ御長。常ノ人ノ一倍バカリニ拜ム。御顔少黒
色ニシテ御鬚アリ。御堂ノ軒ニ寶鈴瓔珞微風ニチンクト鳴聲
面白ク美クシク奇麗ナル粧。哀此ニ住バヤト思フ處ニ。佛ヨリ御使
リ。此階ヲ升リテ見ヨト。サテ此ヲ升ルニ。下ノ鐵階三重ヲ升リ。
中ノ銅ニ及ブ時踏スベリテ落ヌ。尔時又御使在テ汝ハ此ニ住ス
ルコトナラズ。地獄極樂へ往ヘシト。地獄極樂ト云處。サノミ惡キ處

續鑛石下本

ニアラズ。佛神ノ在ヌバカリナリ。仰ヲ蒙リ是非ナク御前ヲ立往
時ノ悲サ。死セル時ノ悲ニ百倍セリ。サテ地獄極樂ニ到リヌ。小堂
アリ。鉦ヲ敷ク。率都婆家ノ柱ナリ。是モ頗ル奇麗ナリ。故ニ率
都婆ノ木ハ太ク直ナルガ能ト云ナリ。私ニ云ク。是中有ニテ地獄ト淨土
トノカ。此世ニテ相知タル人ハ。冥土ニテモ逢ハ相知ル。但シ娑婆ノ
心ヲ其マニテ持行ハ善心ノ人ノ往ハ諸人敬ヒ。惡心ノ者ノ往ハ
何ナル高位高官ノ人モ。佛ノ御計ニテ否ト云コトナラズ。此佛黒色ト云
ハ三藏ノ説同
焔魔大王ヲ疑クハ。サテ來世ニ數多アリ。一ニハ極樂淨土。是ハ神々
チノ御坐目出タキ處ナリ。一ニハ極樂。二ニハ地獄極樂ナリ。釋尊ハ
極樂淨土ト極樂トノ境ニ御在ヌ。私ニ云極樂淨土ハ既ニ淨土ニ生セル人
住處極樂ハ必ズ往生スベキ人ノ追福ヲ
待ナカ地獄ノ數モ種々アリ。此世ニテ札ヤ守ヲ頸ニ挂タル者ハ。皆

我堂ニ挂飾ル存生ニ覺ヘシ藝能ハ冥土ニテモ勤テ慰ムナリ。時ニ母問テ曰ク葬頭河ノ姥ヲ見レ候カ。我等ハ罪ナキガ故ニ。其ノ道ヘ往ズ。見物ノ爲ニ少間往シカ。長高ク口廣ク。牙四寸ばかり。爪ハ五寸ばかりアリ。爪ヲ罪人ニ打立クシテ。鉦ノ舩ニ取乗テ。地獄ノ岸ニ盪著ク。又歸リテハカクノ如クス。吾暫ク見シガ。處モ臭穢見目モ無情ケレバ。早ク歸リヌ。那兵衛問。公ハ罪モナシ何トシテカ佛ノ御前ニハ住セシメ玉ハザルヤ。曰ク不審ナリ。父祖ノ罪障モ。子孫ニ及コトアリトカヤ。然ル故ニカサノミ呵嘖モナク。佛神ノナキ處ニ住マデニテ苦モナシサビシキ事限リナシ。娑婆ヨリ香花ヲ備ヘ。燈明供物ヲ列ネ。誦經スル時ハ。堂ノ内燈明耀キ。香ノ薰ニテ惡魔不來。立花見事ニテ。誦經誦咒面白ケレバ。諸人集リテ賑シク

續鑛石下本

十二

嬉シキナリ母問テ曰ク。毎月ノ靈供届キ候カ。墓參ハ存ゼラルカ。亡者ノ曰ク。一遍ノ念佛一花一香マデモ届スト云コトナシ。佛前ノ回向ハ佛前ニテ亭。廟參ハ墓ニテ亭。但シ手向ル物ハ奇麗ナルニ過タルハナシ。腥氣ナク物ノ初穂ヲ備ヘヨ。食物ニ限ラズ。水マテモ清淨ノ水ヲ新ニ汲テ手向レバ。人ニモ分チ與ルニ不聲甚喜ブ。命日アラザレドモ。亡者ノ爲ニトテ回向スレバ。悉ク届候ナリ。但夫婦叱諍シテ後ニ手向玉フ時ハ。甚快カラズト。問酒ヲ供ズベキカ。イヤク冥土ニテハ總テ禁酒ナリ。絶テアルマジキ事ナリ。問盂蘭盆ハ何比ヨリ御出候ヤ。答總テ餓鬼ハ七月五六日ヨリ。彼地ヲ出。七八日ニ家ニ入道遠レバナリ。罪輕キ者ハ。八日九日ヨリ出テ。山ニ升リ山ヨリ下リテ。晝ハ神社佛閣ニ止リ。十一日十二日ノ夜ニ入

我堂ニ挂飾ル。存生ニ覺ヘシ藝能ハ。冥土ニテモ勤テ慰ムナリ。時ニ母問テ曰ク葬頭河ノ姥ヲ見レ候カ。我等ハ罪ナキガ故ニ。其ノ道ヘ往ズ。見物ノ爲ニ少間往シカ。長高ク口廣ク。牙四寸ばかり。爪ハ五寸ばかりアリ。爪ヲ罪人ニ打立クシテ。鉦ノ舩ニ取乗テ。地獄ノ岸ニ盪著ク。又歸リテハカクノ如クス。吾暫ク見シガ。處モ臭穢見目モ無情ケレバ。早ク歸リヌ。那兵衛問。公ハ罪モナシ何トシテカ佛ノ御前ニハ住セシメ玉ハザルヤ。曰ク不審ナリ。父祖ノ罪障モ。子孫ニ及コトアリトカヤ。然ル故ニカサノミ呵嘖モナク。佛神ノナキ處ニ住マデニテ苦モナシ。サビシキ事限リナシ。娑婆ヨリ香花ヲ備ヘ。燈明供物ヲ列ネ。誦經スル時ハ。堂ノ内燈明耀キ。香ノ薰ニテ惡魔不來。立花見事ニテ。誦經誦咒面白ケレバ。諸人集リテ賑シク

續鑛石下本

十二

嬉シキナリ母問テ曰ク。毎月ノ靈供届キ候カ。墓參ハ存ゼラルカ。亡者ノ曰ク。一遍ノ念佛一花一香マデモ届スト云コトナシ。佛前ノ回向ハ佛前ニテ亭。廟參ハ墓ニテ亭。但シ手向ル物ハ奇麗ナルニ過タルハナシ。腥氣ナク物ノ初穂ヲ備ヘヨ。食物ニ限ラズ。水マテモ清淨ノ水ヲ新ニ汲テ手向レバ。人ニモ分チ與ルニ不聲甚喜ブ。命日アラザレドモ。亡者ノ爲ニトテ回向スレバ。悉ク届候ナリ。但夫婦叱諍シテ後ニ手向玉フ時ハ。甚快カラズト。問酒ヲ供ズベキカ。イヤク冥土ニテハ總テ禁酒ナリ。絶テアルマジキ事ナリ。問盂蘭盆ハ何比ヨリ御出候ヤ。答總テ餓鬼ハ七月五六日ヨリ。彼地ヲ出。七八日ニ家ニ入道遠レバナリ。罪輕キ者ハ。八日九日ヨリ出テ。山ニ升リ山ヨリ下リテ。晝ハ神社佛閣ニ止リ。十一日十二日ノ夜ニ入

④下本12ウ

テ家ニ到リ著。餓鬼ハ常ニ飢タレ故ニ夜トモナク晝トモナク。物
ホシガリ行ホドニ。若人ニ行逢ハバ取著テ熱病ヲ患ヘシメ。多ク
湯水ヲ飲ナリ。故ニ盆前ニ夜行ナドハスマジキ事ナリ。母ノ曰
ク盆奠ニ土器ヲ用ルハ宜キカ。亡者ノ曰ク盆奠ハ常ニ替リテ客
人心ニテ。新キ土器奇麗ニテ能候ナリ。問親類中ヨリ戒名
ヲ尋子問レ回向セラル届候カ。曰ク皆届キ常々嬉シク思ヒコロ
ナリ。宜シク禮謝シ玉ヘ。新兵衛能心得親ニ孝ヲ盡セ冥土ニ
テハ聲ヲ聞ドモ。父母ノ面ヲ見ズ。父母子ヲ見レバ。子ノ形鬼形
ト見。是佛ノ御計ナレバ。是非ニ及バズ。サテ親類ノ亡者ノ生
處ヲ問ニ。皆答コト分明ナリ。存生ノ時ノ心性ノ好惡ヲ憶ヒ
合スルニ違トコロナシ。欲知未來果見其現在因ト。佛ノ金言

●續鑛石下本

少モ疑ナキモノナリ。問テ曰ク。死人ハ幾年ニカ生レ替リ候ヤ。亡者
ノ曰ク。三十三年ニテ生レ替ルトカ云ナル。委クモ不知又問二人ノ
御舍弟ハ御逢ナサレタカ思メサズヤ。亡者ノ曰ク。逢タクハ早クニ
此ニ來ルヘキニ音モセヌニテ知タルヤ。イヤ先刻ヨリ此ニ候ナリトテ季
子ノ曰ク能ク御出候ト白サル。時アラ懷ヤトテ啼泣スルコト漸
久シ。叔子儻ニアリシニ。女子共。アレ御聞候カト云ケレバ。聞多モナシ
ト云ヲ。ヤガテ亡者聞知テ。汝ハ何トテ早クハ來ラヌ。兄弟ハ他人ノ
初ナリ。兩親存命ノ間ニコソ。回向ニモ預ラメ。サテモ無情ヤトテ泣ル
時ニ伽羅一片ヲ燒ル。新兵衛カ曰ク。御馳走ノ爲ニ伽羅ヲ燒テ
亨玉ヘト云バ。満足ナリト悦バル。母ノ曰ク。小子ハ其方ニ給仕丁寧ナリ
シガ呼ニ遣スベシトテ。老女ヲ呼出ス。老女來テ小太郎様カト云ニ。

テ家ニ到リ著。餓鬼ハ常ニ飢タル故ニ。夜トモナク晝トモナク。物
ホシガリ行ホドニ。若人ニ行逢ハバ取著テ。熱病ヲ患ヘシメ。多ク
湯水ヲ飲ナリ。故ニ盆前ニ夜行ナドハスマジキ事ナリ。母ノ曰
ク盆奠ニ土器ヲ用ルハ宜キカ。亡者ノ曰ク。盆奠ハ常ニ替リテ客
人心ニテ。新キ土器奇麗ニテ能候ナリ。問親類中ヨリ戒名
ヲ尋子問レ回向セラル届候カ。曰ク皆届キ常々嬉シク思ヒコロ
ナリ。宜シク禮謝シ玉ヘ。新兵衛能心得親ニ孝ヲ盡セ。冥土ニ
テハ聲ヲ聞ドモ。父母ノ面ヲ見ズ。父母子ヲ見レバ。子ノ形鬼形
ト見。是佛ノ御計ナレバ。是非ニ及バズ。サテ親類ノ亡者ノ生
處ヲ問ニ。皆答コト分明ナリ。存生ノ時ノ心性ノ好惡ヲ憶ヒ
合スルニ違トコロナシ。欲知未來果見其現在因ト。佛ノ金言

●續鑛石下本

少モ疑ナキモノナリ。問テ曰ク。死人ハ幾年ニカ生レ替リ候ヤ。亡者
ノ曰ク。三十三年ニテ生レ替ルトカ云ナル。委クモ不知又問二人ノ
御舍弟ハ御逢ナサレタカ思メサズヤ。亡者ノ曰ク。逢タクハ早クニ
此ニ來ルヘキニ音モセヌニテ知タルヤ。イヤ先刻ヨリ此ニ候ナリトテ。季
子ノ曰ク能ク御出候ト白サル。時アラ懷ヤトテ啼泣スルコト漸
久シ。叔子儻ニアリシニ。女子共。アレ御聞候カト云ケレバ。聞タクモナシ
ト云ヲ。ヤガテ亡者聞知テ。汝ハ何トテ早クハ來ラヌ。兄弟ハ他人ノ
初ナリ。兩親存命ノ間ニコソ。回向ニモ預ラメ。サテモ無情ヤトテ泣ル
時ニ伽羅一片ヲ燒ル。新兵衛カ曰ク。御馳走ノ爲ニ伽羅ヲ燒テ
亨玉ヘト云バ。満足ナリト悦バル。母ノ曰ク。小子ハ其方ニ給仕丁寧ナリ
シガ呼ニ遣スベシトテ。老女ヲ呼出ス。老女來テ小太郎様カト云ニ。

互ニ涙ニ咽ビテ良久シテ。吾存生ノ間ハ万事ニ心ヲ付テクレ嬉シ
サ今ニ忘ズ。サテ兩親ノ御聲ナリトモ聞タク思ヒ來レルゾヤ。新兵
衛下人ヲ使フトモ能ク心得テ平等ニ使ヒ恨ナキヤウニセヨ。父様ハ
人アタリアシクテ。二リノ弟共ガ行末ノ爲惡カルベシト不便ナリ。兩親
腹立シ玉フ時ハ。吾ガ堂ノ内モ狹クナリ。身モスクミテ惡キナリ。但シ父
様ハ放逸ニテ。个様ノ事ヲ筋ナキヤウニ聞玉ヒ。中ニ承引ハアルマ
ジキゾ。親ノ事ナレバ。兎角知セタク思ヒ。遙クト來リ。宵ヨリ此ニ候
ドモ露音信モナキゾヤ。存生ヨリ親子ノ縁ハ切果タルガ。今又同シ
ト泣ル。問テ曰ク。冥土ニテハ何ノ宗旨カ勝レ候ヤ。亡者ノ曰ク。何モ勝
劣ナケレドモ。中ニモ真言宗ホド奇麗ニシテ善ハナシ。一向宗ナドニハ
人々寄合ザルナリ。兎角後生佛道ヲ願フベシ。我等モ存生ノ時

●續鑛石下本

只今ノ半分ナリトモ佛法ヲ信仰シナバ。早く善處ニ生ズベキヲ。今更
後悔限リナシ。能ク心得テ。人ニ惡クアタルナヨ。慳貪邪見ノ人ハ。念佛
名號唱ヘツ。千部ノ法華經ヲ誦ジタリトモ。未來ノ爲ニハナラズト。長
八何ニテモ進ズベシ召上ラレトテ。串柿ニツ三ツヲ進ズ。此ハ我鉦巾
著ニ納テ行ナリ。長八カ曰ク。今少シ残り候ハ。後刻進ズベク候ト。亡者
ノ曰ク夫ハ先ヘヤレ。乞食非人ニ與レバ。サキヘ行テアルナリト云レケレ
乞食ニ施シヌ。私云今日亡者ノ忌日ニ至テ。父初テ出逢レ。小
太郎カイカニ久シキト。言ヲ挂ラレケレバ。サモ痛シキ聲ニテ父様ト
ガカリニテ。互ニ涙ニ咽ビ。良久シク語ナク。後ニ父ノ曰ク。其方存生ノ
間ハ仕著ノ爲ト思ヒ。叱呵諸事。ヲロソカナリシガ。不慮ニ死去ノ事
後悔スレドモ甲斐ナシ。此上ハ能ク追福ヲ作ヘシ。先高野山ヘ

互ニ涙ニ咽ビテ良久シテ。吾存生ノ間ハ。万事ニ心ヲ付テクレ嬉シ
サ今ニ忘ズ。サテ兩親ノ御聲ナリトモ聞タク思ヒ來レルゾヤ。新兵
衛下人ヲ使フトモ。能ク心得テ平等ニ使ヒ恨ナキヤウニセヨ。父様ハ
人アタリアシクテ。二リノ弟共ガ行末ノ爲惡カルベシト不便ナリ。兩親
腹立シ玉フ時ハ。吾ガ堂ノ内モ狹クナリ。身モスクミテ惡キナリ。但シ父
様ハ放逸ニテ。个様ノ事ヲ筋ナキヤウニ聞玉ヒ。中ニ承引ハアルマ
ジキゾ。親ノ事ナレバ。兎角知セタク思ヒ。遙クト來リ。宵ヨリ此ニ候
ドモ露音信モナキゾヤ。存生ヨリ親子ノ縁ハ切果タルガ。今又同シ
ト泣ル。問テ曰ク。冥土ニテハ何ノ宗旨カ勝レ候ヤ。亡者ノ曰ク。何モ勝
劣ナケレドモ。中ニモ真言宗ホド奇麗ニシテ善ハナシ。一向宗ナドニハ
人々寄合ザルナリ。兎角後生佛道ヲ願フベシ。我等モ存生ノ時

●續鑛石下本

只今ノ半分ナリトモ佛法ヲ信仰シナバ。早く善處ニ生ズベキヲ。今更
後悔限リナシ。能ク心得テ。人ニ惡クアタルナヨ。慳貪邪見ノ人ハ。念佛
名號唱ヘツ。千部ノ法華經ヲ誦ジタリトモ。未來ノ爲ニハナラズト。長
八何ニテモ進ズベシ召上ラレトテ。串柿ニツ三ツヲ進ズ。此ハ我鉦巾
著ニ納テ行ナリ。長八カ曰ク。今少シ残り候ハ。後刻進ズベク候ト。亡者
ノ曰ク夫ハ先ヘヤレ。乞食非人ニ與レバ。サキヘ行テアルナリト云レケレ
乞食ニ施シヌ。私云今日亡者ノ忌日ニ至テ。父初テ出逢レ。小
太郎カイカニ久シキト。言ヲ挂ラレケレバ。サモ痛シキ聲ニテ父様ト
ガカリニテ。互ニ涙ニ咽ビ。良久シク語ナク。後ニ父ノ曰ク。其方存生ノ
間ハ仕著ノ爲ト思ヒ。叱呵諸事。ヲロソカナリシガ。不慮ニ死去ノ事
後悔スレドモ甲斐ナシ。此上ハ能ク追福ヲ作ヘシ。先高野山ヘ

④下本14ウ

日牌ヲ立ヘシ可然ヤト。亡者ノ曰ク辱ク満足ニ存候ナリ。又法華
 經ハ軸ヲ調ヘ。丈六寺ヘ納ムベシトアレバ。願クハ真言寺ヘ納メ玉ヘト。
 相心得タリト堅ク約束ナリ。サテ亡者ノ曰ク。父様ハ年モ餘程
 ヨリ玉フニ。後生ノ御志シ聊モナシ。个様ノ事申上ベキ爲ニ此
 度參リテ候ナリ。必ズ家來ニモ無情アタラセ玉フベカラズト。父ノ曰
 ク心得タリトテ。頓テ退キ入レヌ。亡者ノ曰ク。新兵衛聞。兩親ヘ
 恨アリトイヘドモ。逢奉レバ涙ニ關レテ云タキ事モ。十分ガ一モ言ヌ
 ゾ。未練ナリト思フナト。廿日ノ朝。山伏共來テ法華ニ曲ヲ付テ
 讀暫ク加持ス。面白シトテ高聲ニ曰ク。某乙ハ何ノ執心モナク
 恨モナケレドモ。十七歳ヲ一期トシテ空ク死シ。今年マテ九年
 ヲ經タリ。兩親現在セリ。故郷ノ事懷シサニ。此病人ニ託シテ

●續鑛石下本 十五

日牌ヲ立ヘシ可レキ燃ヤト。亡者ノ曰ク辱ク満足ニ存候ナリ。又法華
 經ハ軸ヲ調ヘ。丈六寺ヘ納ムベシトアレバ。願クハ真言寺ヘ納メ玉ヘト。
 相心得タリト堅ク約束ナリ。サテ亡者ノ曰ク。父様ハ年モ餘程
 ヨリ玉フニ。後生ノ御志シ聊モナシ。个様ノ事申上ベキ爲ニ此
 度參リテ候ナリ。必ズ家來ニモ無情アタラセ玉フベカラズト。父ノ曰
 ク心得タリトテ。頓テ退キ入レヌ。亡者ノ曰ク。新兵衛聞。兩親ヘ
 恨アリトイヘドモ。逢奉レバ涙ニ關レテ云タキ事モ。十分ガ一モ言ヌ
 ゾ。未練ナリト思フナト。廿日ノ朝。山伏共來テ法華ニ曲ヲ付テ
 讀暫ク加持ス。面白シトテ高聲ニ曰ク。某乙ハ何ノ執心モナク
 恨モナケレドモ。十七歳ヲ一期トシテ空ク死シ。今年マテ九年
 ヲ經タリ。兩親現在セリ。故郷ノ事懷シサニ。此病人ニ託シテ

●續鑛石下本 十五

④下本15ウ

テ候。両親共ニ無信心ニ候。中ニ別テ母様邪見ニ候。女人ハ總ジテ罪ナクテモ浮ミガタシト申候。増テ邪見ニ候。御痛シク存候ナリ。カヤウニ申候事モ。病人メガ熱ニ侵サレ。鬼神ニ誑サレテ。不實ノ事ヲ申ヤウニ御心得候ガ。即邪見ニテ御座候。能ク御心得ナサレ。佛法ニ入玉ヘ。此世ニテ何程威勢アリトテモ。貌ヲモ威勢ヲモ。佛ハ取玉ハズ。唯心ノ慈悲正直ナルヲ尊ミ玉フゾヤ。必ク後悔ナサレ候ナ。如何ニ父様後生トテ必ズ念佛唱ルカ能トバカリ御心得候ナ。家來ノ者ニ慈悲心ヲ加ヘ玉。朋輩ナドニ饗應ナドナサレ候ハ無益ナリ。乞食非人家來貧者ニ施シヲ作玉フヲ善根ト申スナリ。御名殘惜候トテ。泣沈ミ新兵衛思ノマ、ニ何事モ言レヌゾ。伯父叔母從弟等マデニ。ソレクニ暇乞アリ。弟共サラバ

●續鑛石下本

十六

く上テ伏ニガツハト卧セラル。時ニ新兵衛アマリ痛シサニ。耳根ニシヨリ。只今御歸リカト云バ。頃日ハ骨折ナリ満足ナリ。新兵衛長ノ隅田川ニ獨リ却ルゾトテ泣入レケレバ。新兵衛ガ曰ク。思出シ候時ハ御回向仕ルベシト云ハ。其方が回向ノミゾ。能ク届クベキゾ。頃日冥土ノ物語ノ事共。諸人ニ語り聞セヨ。冥土ヨリ遙ニ察シテ悦ブベキゾ。今行ゾサラバトバカリニテ。廿三日ノ子ノ刻ニ病女絶入シテ。一時バカリ息絶ヌ。然レドモ脉タハザルニヨリ。口ニ藥ナド灌キケレバ。漸クニ人心ツキ。翌日マデ熟睡廿四日ニハ平生ノ如クニナリ。病中ノ事一モ知ズト云。爰ニ日蓮宗ノ妙法寺ト云僧アリ。曰ク此下女メハ小太郎殿ノ事ヲ能ク知テ誑スナリ。若是真實ニ亡者ノ来リ託セルナラバ。我ハ出家ヲ立マジト誓言ス。此誓言明ニ報ヒテ

テ候。両親共ニ無信心ニ候。中ニ別テ母様邪見ニ候。女人ハ總ジテ罪ナクテモ浮ミガタシト申候。増テ邪見ニ候。御痛シク存候ナリ。カヤウニ申候事モ。病人メガ熱ニ侵サレ。鬼神ニ誑サレテ。不實ノ事ヲ申ヤウニ御心得候ガ。即邪見ニテ御座候。能ク御心得ナサレ。佛法ニ入玉ヘ。此世ニテ何程威勢アリトテモ。貌ヲモ威勢ヲモ。佛ハ取玉ハズ。唯心ノ慈悲正直ナルヲ尊ミ玉フゾヤ。必ク後悔ナサレ候ナ。如何ニ父様後生トテ必ズ念佛唱ルカ能トバカリ御心得候ナ。家來ノ者ニ慈悲心ヲ加ヘ玉。朋輩ナドニ饗應ナドナサレ候ハ無益ナリ。乞食非人家來貧者ニ施シヲ作玉フヲ善根ト申スナリ。御名殘惜候トテ。泣沈ミ新兵衛思ノマ、ニ何事モ言レヌゾ。伯父叔母從弟等マデニ。ソレクニ暇乞アリ。弟共サラバ

●續鑛石下本

十六

く上テ伏ニガツハト卧セラル。時ニ新兵衛アマリ痛シサニ。耳根ニシヨリ。只今御歸リカト云バ。頃日ハ骨折ナリ満足ナリ。新兵衛長ノ隅田川ニ獨リ却ルゾトテ泣入レケレバ。新兵衛ガ曰ク。思出シ候時ハ御回向仕ルベシト云ハ。其方が回向ノミゾ。能ク届クベキゾ。頃日冥土ノ物語ノ事共。諸人ニ語り聞セヨ。冥土ヨリ遙ニ察シテ悦ブベキゾ。今行ゾサラバトバカリニテ。廿三日ノ子ノ刻ニ病女絶入シテ。一時バカリ息絶ヌ。然レドモ脉タハザルニヨリ。口ニ藥ナド灌キケレバ。漸クニ人心ツキ。翌日マデ熟睡廿四日ニハ平生ノ如クニナリ。病中ノ事一モ知ズト云。爰ニ日蓮宗ノ妙法寺ト云僧アリ。曰ク此下女メハ小太郎殿ノ事ヲ能ク知テ誑スナリ。若是真實ニ亡者ノ来リ託セルナラバ。我ハ出家ヲ立マジト誓言ス。此誓言明ニ報ヒテ

三年ノ内ニ墮落シテ出奔シ。行方ヲ知ス成ニケリ。卒尔ノ誓言ハ立マシキ事ナリトテ。佛ノ誠メ玉フハ是ナリ。下女七日ノ間ハ魚肉ヲ不レ食。廿四日ヨリハ常ノ如クニ肉食ス。新兵衛後ニ那兵衛ト改ム。予寶永四年ノ春。彼地ニ遊シテ。那兵衛ガ直説ヲ聞。又亡者ノ囑ナリ。筆記シテ諸人ニ聞知シメ玉ヘト請ニ依テ略シテ記ス。具ニハ不朽物語一卷アリ。披テ見ベシ。那兵衛カ曰ク。下女カ言音立居振舞亡者ノ存生ニ少モ違ズ。死セシ人ヲ問ニ。戒名ヲ不レ言ハ皆俗名ヲ呼。存生ニ少訥リテ早口ナリシガ。下女七日ガ間ノ言少モ違ハズ。亡者歸去ノ後。近藤長八。郡新兵衛二人議シテ。寛文七年丁未二月廿四日記スト。不朽物語ノ大綱是ノ如シ

七ニハ盆供奠等本説ノ事

續鑛石下本

十七

或人問。心月閑西ノ三十三年ニシテ生處定ルカト云事本説アリヤ。答テ曰ク杜撰ノ十王經ノ説ニ據カ。分明ノ佛説ハ吾未レ考。七月七日ノ追善ハ。地藏經。瑜伽論。灌頂經等ノ説ナリ。百个日一周諱。三年諱。七年。十三年。三十三年忌ハ。聖德太子ノ定メ玉フトコロナリ。一周忌。三年忌ハ。禮記ニ。小祥忌。大祥忌ト云テ。儒士ノ奠リナリ。佛法モ是ニ慣フカ。世ノ愚蒙ノ人。十七年。廿一年。廿三年。廿五年。廿七年忌マテヲ奠ルハ。本據未ダ見ズ。梵網經。楞嚴。優婆塞戒經。心地觀經。及ビ密部ノ説ハ。七七日百个日等ノ事分明ナラザレバ。毎年毎月。追福ヲ修スルハ。愆重ノ儀ナルベシ。況ヤ六分功徳生者自利ト説玉フヤ。蓋シ竟奠頻數ナル時ハ。事業ヲ防グ。故ニ聖人百个日一周忌等ヲ以テ。庶人ノ奠供ノ法禮トス。士大

三年ノ内ニ墮落シテ出奔シ。行方ヲ知ス成ニケリ。卒尔ノ誓言ハ立マシキ事ナリトテ。佛ノ誠メ玉フハ是ナリ。下女七日ノ間ハ魚肉ヲ不レ食。廿四日ヨリハ常ノ如クニ肉食ス。新兵衛後ニ那兵衛ト改ム。予寶永四年ノ春。彼地ニ遊シテ。那兵衛ガ直説ヲ聞。又亡者ノ囑ナリ。筆記シテ諸人ニ聞知シメ玉ヘト請ニ依テ略シテ記ス。具ニハ不朽物語一卷アリ。披テ見ベシ。那兵衛カ曰ク。下女カ言音立居振舞亡者ノ存生ニ少モ違ズ。死セシ人ヲ問ニ。戒名ヲ不レ言ハ皆俗名ヲ呼。存生ニ少訥リテ早口ナリシガ。下女七日ガ間ノ言少モ違ハズ。亡者歸去ノ後。近藤長八。郡新兵衛二人議シテ。寛文七年丁未二月廿四日記スト。不朽物語ノ大綱是ノ如シ

七ニハ盆供奠等本説ノ事

續鑛石下本

十七

或人問。心月閑西ノ三十三年ニシテ生處定ルカト云事本説アリヤ。答テ曰ク杜撰ノ十王經ノ説ニ據カ。分明ノ佛説ハ吾未レ考。七月七日ノ追善ハ。地藏經。瑜伽論。灌頂經等ノ説ナリ。百个日一周諱。三年諱。七年。十三年。三十三年忌ハ。聖德太子ノ定メ玉フトコロナリ。一周忌。三年忌ハ。禮記ニ。小祥忌。大祥忌ト云テ。儒士ノ奠リナリ。佛法モ是ニ慣フカ。世ノ愚蒙ノ人。十七年。廿一年。廿三年。廿五年。廿七年忌マテヲ奠ルハ。本據未ダ見ズ。梵網經。楞嚴。優婆塞戒經。心地觀經。及ビ密部ノ説ハ。七七日百个日等ノ事分明ナラザレバ。毎年毎月。追福ヲ修スルハ。愆重ノ儀ナルベシ。況ヤ六分功徳生者自利ト説玉フヤ。蓋シ竟奠頻數ナル時ハ。事業ヲ防グ。故ニ聖人百个日一周忌等ヲ以テ。庶人ノ奠供ノ法禮トス。士大

④下本17ウ

夫公卿三公諸王各等級アリ。禮綱本紀ニ出タルガ如シ。三十二年ニテ終ルハ。但庶人ノ冤奠ノ式ナリ。僧道ハ必シモ俗法ニ泥ムベカラザルカ。○問七月十五日ノ冤奠ノ事。佛説ニ背リトテ呵スル人アリ如何。答孟蘭盆經目連救母ノ緣。權輿ナルコトハ。婦人小子トイフモ普ク知リ。目連始テ六通ヲ得トイヘドモ。尚亡母ノ苦ヲ救コトアタズ。故ニ佛ニ拯救ノ法ヲ問。佛七月十五日。自恣ノ僧ヲ供養セシム。自恣ノ僧ノ中ニ。權現ノ大菩薩アリ。供養ヲ受テ咒願ス。今時ハ三寶ヲ供ズル事ハ希ニシテ。唯靈冤我家ニ歸リ來テ祭奠ヲ亨ト思ヘリ。閑西ノ告ルトコロモ亦同ジ。經説トハ甚背リ。但此難才智不足ノ故ニ猥リニ呵ス。予詰難スベシ。末法惡世天下ニ三僧房アリ。

續鑛石下本

十八

然レドモ夏中坐禪ノ入ハ一人モナシ。五停心觀スラ夢ニダモ見ズ。況ヤ四向四果。權現ノ大士ヲヤ。若法ヲ守テ自恣ノ僧ヲ請ゼバ。京河南泉州ニ八九家ニ過ベカラス。是利益周遍セザルナリ。況ヤ木頭ノ愚禿咒願ストモ。何ゾ頓劇苦ヲ免レンヤ。故ニ在々處々ニ一僧ヲ請ジ。誦咒經セシメテ。亡者ノ得脱ヲ願フハ。止コトヲ得ザレバナリ。或ハ一向ニ冤奠ヲナサルハ。又大邪見ニ墮セル者ナリ。哀哉○和國冤奠ノ緣起ハ大ニ別ナリ。請試嘗ニ二ニヲ示サン。神皇本紀ニ云神武天皇元年十一月庚寅朔熟美真味命公奉齋殿内天璽瑞寶奉爲帝后崇鎮御冤一祈禱御壽所謂御冤奠自此而始焉。已上又禮綱本紀云。大寒日天皇幸大仁殿行祭教節會燒庭火於六所。每所積麥豆粟米鹽。依於火北東西安大

夫。公卿。三公。諸王各等級アリ。禮綱本紀ニ出タルガ如シ。三十二年ニテ終ルハ。但庶人ノ冤奠ノ式ナリ。僧道ハ必シモ俗法ニ泥ムベカラザルカ。○問七月十五日ノ冤奠ノ事。佛説ニ背リトテ呵スル人アリ如何。答孟蘭盆經目連救母ノ緣。權輿ナルコトハ。婦人小子トイヘドモ普ク知リ。目連始テ六通ヲ得トイヘドモ。尚亡母ノ苦ヲ救コトアタズ。故ニ佛ニ拯救ノ法ヲ問。佛七月十五日。自恣ノ僧ヲ供養セシム。自恣ノ僧ノ中ニ。權現ノ大菩薩アリ。供養ヲ受テ咒願ス。今時ハ三寶ヲ供ズル事ハ希ニシテ。唯靈冤我家ニ歸リ來テ祭奠ヲ亨ト思ヘリ。閑西ノ告ルトコロモ亦同ジ。經説トハ甚背リ。但此難才智不足ノ故ニ猥リニ呵ス。予詰難スベシ。末法惡世天下ニ三僧房アリ。

續鑛石下本

十八

然レドモ夏中坐禪ノ入ハ一人モナシ。五停心觀スラ夢ニダモ見ズ。況ヤ四向四果。權現ノ大士ヲヤ。若法ヲ守テ自恣ノ僧ヲ請ゼバ。京河南泉州ニ八九家ニ過ベカラス。是利益周遍セザルナリ。況ヤ木頭ノ愚禿咒願ストモ。何ゾ頓劇苦ヲ免レンヤ。故ニ在々處々ニ一僧ヲ請ジ。誦咒經セシメテ。亡者ノ得脱ヲ願フハ。止コトヲ得ザレバナリ。或ハ一向ニ冤奠ヲナサルハ。又大邪見ニ墮セル者ナリ。哀哉○和國冤奠ノ緣起ハ大ニ別ナリ。請試嘗ニ二ニヲ示サン。神皇本紀ニ云神武天皇元年十一月庚寅朔熟美真味命公奉齋殿内天璽瑞寶奉爲帝后崇鎮御冤一祈禱御壽所謂御冤奠自此而始焉。已上又禮綱本紀云。大寒日天皇幸大仁殿三行祭教節會燒庭火於六所。每所積麥豆粟米鹽。依於火北東西安大

幣於俄上而奉温炎於天神地祇乃至是爲撥來春疫疾也
夫疫疾有二類其一有荒靈邪鬼流行世界或食薄運弱氣
人之精氣或食穢神作惡人之精氣而爲此疾云云爲鬼惱
設祭供撥之云云三十日行大祓是祓解年中有意不知兩
過兩罪私云此似穢此夜行奠奠之禮是日代宮朝綏靖天
十有一年春天下太疫天皇設祈祭於大神大社于時大神
託曰十有一月晦日父祖曾祖靈自黃泉來臨子孫之屋
無子孫之靈周臨人家不得奠供故化毒鬼率毒風而作此
病我難不孝之災云何天皇知之命下奠父祖親者及無便
諸人之鬼靈自是爲此奠夫父祖之鬼望奠供而至子孫之
屋則設雖非所由治疫毒孝子孰不奠之況治毒況神命況

續鑛石下本

十九

勅命乎正月己來月有國忌先帝崩御日也。大爲齋忌而行
孝道。一切節會當於此且則悉被停止行天節所以立人道
也。行人道所以立孝行也。孝行廢則人道不立。人道既不立
則天道立無處矣。是先皇禮也。其三贊毛羽鱗之肉也。三贊
總不納於供膳雖菜食甘美又不納。黑白酒呂律調皆不用。
唯憂崩日甚慕先考天皇深考詔曰神代崩薨少不知死憂
故其禮不傷。異儒禮儀知死憂不知鬼報三世因果。食供不
盡憂釋典自然合忌儀故國忌膳儀永歸釋教已上天皇深
肉ヲ奠ラス。此八十二日大盡日ノ鬼奠ナリ。醍醐ノ流古キ事相
ノ書中ニ勅命ヲ以テ大盡日ノ夜都ノ八方ノ野ニ於テ奠ルヲ
大神供ト号ストイヘリ。上古ニハ獸ト鳥ト魚ト肉トヲ以テ奠レリ。今和

幣於俄上而奉温炎於天神地祇乃至是爲撥來春疫疾也
夫疫疾有二類其一有荒靈邪鬼流行世界或食薄運弱氣
人之精氣或食穢神作惡人之精氣而爲此疾云云爲鬼惱
設祭供撥之云云三十日行大祓是祓解年中有意不知兩
過兩罪私云此似穢此夜行奠奠之禮是日代宮朝綏靖天
十有一年春天下太疫天皇設祈祭於大神大社于時大神
託曰十有一月晦日父祖曾祖靈自黃泉來臨子孫之屋
無子孫之靈周臨人家不得奠供故化毒鬼率毒風而作此
病我難不孝之災云何天皇知之命下奠父祖親者及無便
諸人之鬼靈自是爲此奠夫父祖之鬼望奠供而至子孫之
屋則設雖非所由治疫毒孝子孰不奠之況治毒況神命況

續鑛石下本

十九

勅命乎正月己來月有國忌先帝崩御日也。大爲齋忌而行
孝道。一切節會當於此且則悉被停止行天節所以立人道
也。行人道所以立孝行也。孝行廢則人道不立。人道既不立
則天道立無處矣。是先皇禮也。其三贊毛羽鱗之肉也。三贊
總不納於供膳雖菜食甘美又不納。黑白酒呂律調皆不用。
唯憂崩日甚慕先考天皇深考詔曰神代崩薨少不知死憂
故其禮不傷。異儒禮儀知死憂不知鬼報三世因果。食供不
盡憂釋典自然合忌儀故國忌膳儀永歸釋教已上天皇深
肉ヲ奠ラス。此八十二日大盡日ノ鬼奠ナリ。醍醐ノ流古キ事相
ノ書中ニ勅命ヲ以テ大盡日ノ夜都ノ八方ノ野ニ於テ奠ルヲ
大神供ト号ストイヘリ。上古ニハ獸ト鳥ト魚ト肉トヲ以テ奠レリ。今和

④下本 19ウ

州春日ノ御祭ハ此遺風カ。然ドモ聖德太子ヨリ以來鬼奠ニハ肉ヲ奠ス。故ニ永ク歸釋教ニト云ナリ。此鬼奠リ釋教ニ歸シ。七月十五日ノ盆供ノ因縁ト事相類シ。孝道此レナルカ故ニ。大晦日ト七月ト混合シテ亡鬼ヲ祭奠ヲ專一トスルナリ。又曰七月一日行盡孝ノ宣言。人生救又母苦難是常也。死成鬼不救鬼難。豈謂盡孝乎。雖聖人未詳知鬼境。孔老不知又云何。今幸得真聖大聖佛說不差。神代黃泉紀之說事。故告之於州邦。令兆民發孝道。生孝恐父威未爲真孝。死孝不視之何。以爲真。生救不見之。又不爲真。死救思兮悲之。是爲真。余朔日告之兼悅自恣日貧者且且畜一文夕夕設一升充之。盆供營其意。爲孝憐死親而慎生己罪。其心爲道。是此宣言於遠國。預命國司至

續鑛石下本

二十

此日告之。已上又日十有五日。天皇幸大西殿行盆祭節會。百司僧尼同陪設嚴壇於殿上。供百味五菓諸香諸燈。而供養諸佛諸聖天衆地類。並設嚴壇於庭下。供一切所有美食。供養世間迷倒邪神餓鬼荒靈人鬼。賜飯餅米服於衆僧。賜饗膳珍祿於群卿。天皇以船司臣問於菟狹大神。當修盆祭於朝廷否。大神見躬。應詔而勅曰。善詢哉。快詢也。這祭無倫無等。至祭極祭也。別致人間孝道究極。孝父孝母實到茲已盡總格。人道仁德究極。育民撫世實到茲已盡。吾神輩未謂異聖真。聖真。未辨所以。通有大小智有廣偏也。人代已來人鬼成鬼成魅。倫雖計無限不得祭。而怒成疫鬼。成災狗爲妖於國爲害於人。不得食而悲。成化魔。成負魅。奪乎人

州春日ノ御祭ハ此遺風カ。然ドモ聖德太子ヨリ以來鬼奠ニハ肉ヲ奠ス。故ニ永ク歸釋教ニト云ナリ。此鬼奠リ釋教ニ歸シ。七月十五日ノ盆供ノ因縁ト事相類シ。孝道此レナルカ故ニ。大晦日ト七月ト混合シテ亡鬼ヲ祭奠ヲ專一トスルナリ。又曰七月一日行盡孝ノ宣言。人生救又母苦難是常也。死成鬼不救鬼難。豈謂盡孝乎。雖聖人未詳知鬼境。孔老不知又云何。今幸得真聖大聖佛說不差。神代黃泉紀之說事。故告之於州邦。令兆民發孝道。生孝恐父威未爲真孝。死孝不視之何。以爲真。生救不見之。又不爲真。死救思兮悲之。是爲真。余朔日告之兼悅自恣日貧者且且畜一文夕夕設一升充之。盆供營其意。爲孝憐死親而慎生己罪。其心爲道。是此宣言於遠國。預命國司至

兼悅自恣。日貧者且且畜一文夕夕設一升充之。盆供營其意。爲孝憐死親而慎生己罪。其心爲道。是此宣言於遠國。預命國司至

精盜乎田登飢年禍歲自是起行。天皇如今修益供万民亦
修之國難當治休若有致誠格敬而修行人我大神守之眷
屬神從之或福於己福於子孫而不過三代是依遠隨佛命
天命近隨皇命我命也。若有違背輕慢而押棄人我大神罰
之眷屬神擊之或亡於己或亡於子孫不過五代是依遠隨
佛命天命邇叛皇命我命也。我此言無虛妄後世當記其數
而知之。已上八幡大依之肇行益祭於禁中。已上此等ノ文
ヲ案ズルニ子孫奠ラザルノ亡鬼ハ邪神惡鬼天狗ノ類ト成テ人ニ託
シテ疫癘ヲ病シム。五穀ノ精氣ヲ奪フガ故ニ國凶年ニ逢ヒ人疾
病ニ苦シムナレバ大盡日ノ大神供ハ今ハ其法断タルガ故ニ專ラ七
月十五日ノ竟祭ヲ修スベキナリ。律家毎晩ノ施餓鬼モ此意ナ

續鑛石下本

二十一

リ。此等ノ本據ヲ不知。漫リニ七月十五日ノ竟奠ヲ非法ナリト云ハ
日本ノ故事ヲ委フセス。益供ノ本法ヲ解テ疎學ノ然ラシムルナ
リ。閑西ノ益供ハ別シテ客人ノ心ヲ悦ブト云レシコト。神勅ニ叶ヒ天
命ニ應ズ。誰カ益供ヲ勤メザランヤ。但シ今ハ僧ハ少ナリ。佛ト法ト十方
法界ノ聖僧トヲ第一ニ奠リ。靈供ヲバ次ニスベキナリ。○或人問益
ニ施餓鬼ヲ行ジテ亡者ノ爲ニスト云ハ。先祖ヲ悉ク餓鬼ニスルコト
ハ何ゾヤ。答施餓鬼ノ緣起ハ又各別ナレドモ。優婆塞戒經ニ依ル
ニ亡者ノ爲ニ追福ヲ作ニ。餓鬼道ニアル者ハ脱シ易ク。地獄畜生
ニ在者ハ脱レガタシト。然ハ則先祖若シ人天淨土ニ生ゼバ。唯福德威
光ヲ增長スベシ。地獄畜生ニ在者ハ。少分利益ヲ蒙ルトモ得脱ハ
難カルベシ。唯シ餓鬼趣ニ在者ノミ脱シ易カラシ。目連ノ母既ニ餓

精盜乎田ノ登飢年禍歲自是起行。天皇如今修益供万民亦

修之國難當治休若有致誠格敬而修行人我大神守之眷
屬神從之或福於己福於子孫而不過三代。是依遠隨佛命
天命近隨皇命我命也。若有違背輕慢而押棄人我大神罰
之眷屬神擊之或亡於己或亡於子孫不過五代。是依
佛命天命邇叛皇命我命也。我此言無虛妄。後世當記其數
而知之。已上八幡大依之肇行益祭於禁中。已上此等ノ文
ヲ案ズルニ子孫奠ラザルノ亡鬼ハ邪神惡鬼天狗ノ類ト成テ人ニ託
シテ疫癘ヲ病シム。五穀ノ精氣ヲ奪フガ故ニ國凶年ニ逢ヒ。人疾
病ニ苦シムナレバ大盡日ノ大神供ハ。今ハ其法断タルガ故ニ專ラ七
月十五日ノ竟祭ヲ修スベキナリ。律家毎晩ノ施餓鬼モ此意ナ

續鑛石下本

二十一

リ。此等ノ本據ヲ不知。漫リニ七月十五日ノ竟奠ヲ非法ナリト云ハ
日本ノ故事ヲ委フセス。益供ノ本法ヲ解テ疎學ノ然ラシムルナ
リ。閑西ノ益供ハ別シテ客人ノ心ヲ悦ブト云レシコト。神勅ニ叶ヒ天
命ニ應ズ。誰カ益供ヲ勤メザランヤ。但シ今ハ僧ハ少ナリ。佛ト法ト十方
法界ノ聖僧トヲ第一ニ奠リ。靈供ヲバ次ニスベキナリ。○或人問益
ニ施餓鬼ヲ行ジテ亡者ノ爲ニスト云ハ。先祖ヲ悉ク餓鬼ニスルコト
ハ何ゾヤ。答施餓鬼ノ緣起ハ又各別ナレドモ。優婆塞戒經ニ依ル
ニ亡者ノ爲ニ追福ヲ作ニ。餓鬼道ニアル者ハ脱シ易ク。地獄畜生
ニ在者ハ脱レガタシト。然ハ則先祖若シ人天淨土ニ生ゼバ。唯福德威
光ヲ增長スベシ。地獄畜生ニ在者ハ。少分利益ヲ蒙ルトモ得脱ハ
難カルベシ。唯シ餓鬼趣ニ在者ノミ脱シ易カラシ。目連ノ母既ニ餓

④下本21ウ

鬼趣ヲ脱ス。今時ノ亡者モ何トゾ。餓鬼趣ニ在テ得脱セバ十分ノ満足ナルベシ。恐クハ畜生地獄ニ墮シテ。出離シガタカラシコトヲ。餓鬼趣或ハ中有ニ在ル者ハ太幸ナルベシ。閑西ノ人ニ託シテ回向ヲ乞ヒシモ。中有ニアルガ故ナリ。

八二八地藏菩薩種々利益ノ事

高野山淨真院睿澄闇梨。享保五年ノ春。一字ノ堂ヲ造營スルニ番匠木挽日備等毎日多ク入込ケル節。和州吉野郡官瀧村ノ住人登山シテ御長三寸許ノ地藏尊一體ヲ持參シテ曰ク。此尊像ハ久ク我門ガ家ニ傳テ守リトス。濫觴分明ナラズト云ドモ高祖大師靈鷲山ノ土ヲ以テ作り玉ヘル火除ノ地藏トテ。靈驗掲焉ナルコト己覺ヘテモ數个度ナリ。然ルニ僕宿福少キ故ニ朝夕ノ

●續鑛石下本

二二二

煙モ断クニテ渡世ノ爲ニ暇ナク。自然ト信心モ疎カニナリス。若深信供養ノ人ニ讓リテ。朝夕ニ供養ヲ亨シメ奉ント思ヒ當リ價ヲ求メテ沽メヤト持參仕ルナリト睿澄欽シテ拜シ價ハ縁ノ熟スル時ニアルベシ。先此寺ニ預リテ。修法念誦シ供養ジ奉ント。佛壇ニ安置セラル。余后三日過テ夜半許ニ火事ヨト呼聲寢耳ニ入ヌ。造營最中ニテ材木柿屑取散シタル時ナレバ。寺中ノ者共ヲ呼起シ。火事ハ何地ゾ火ハ見ヌカト騒ギ回レトモ。四方寂余トシテ靜ナレバ。諸人口ヲソロヘテ御疲ノ妄夢ニテコソアラメ。心靜ニ安眠シ玉ヘトテ皆衾蒙テ卧シヌ。老僧猶心モトナサニ材木小屋ノ邊ヲ點檢セラル。ニ。柴部屋ノ傍ニ鋸屑堆ヲ作ルカ。一間四方ホド火トナリ。既ニ然升ントセシヲ見付テ。侷子共ヲ起シテ早く打消シ

鬼趣ヲ脱ス。今時ノ亡者モ何トゾ。餓鬼趣ニ在テ得脱セバ十分ノ満足ナルベシ。恐クハ畜生地獄ニ墮シテ。出離シガタカラシコトヲ。餓鬼趣或ハ中有ニ在ル者ハ太幸ナルベシ。閑西ノ人ニ託シテ回向ヲ乞ヒシモ。中有ニアルガ故ナリ。

八二八地藏菩薩種々利益ノ事

高野山淨真院睿澄闇梨。享保五年ノ春。一字ノ堂ヲ造營スルニ番匠木挽日備等毎日多ク入込ケル節。和州吉野郡官瀧村ノ住人登山シテ御長三寸許ノ地藏尊一體ヲ持參シテ曰ク。此尊像ハ久ク我門ガ家ニ傳ヘテ守リトス。濫觴分明ナラズト云ドモ高祖大師靈鷲山ノ土ヲ以テ作り玉ヘル火除ノ地藏トテ。靈驗掲焉ナルコト己覺ヘテモ數个度ナリ。然ルニ僕宿福少キ故ニ朝夕ノ

●續鑛石下本

二二二

煙モ断クニテ渡世ノ爲ニ暇ナク。自然ト信心モ疎カニナリス。若深信供養ノ人ニ讓リテ。朝夕ニ供養ヲ亨シメ奉ント思ヒ當リ價ヲ求メテ沽メヤト持參仕ルナリト睿澄欽シテ拜シ價ハ縁ノ熟スル時ニアルベシ。先此寺ニ預リテ。修法念誦シ供養ジ奉ント。佛壇ニ安置セラル。余后三日過テ夜半許ニ火事ヨト呼聲寢耳ニ入ヌ。造營最中ニテ材木柿屑取散シタル時ナレバ。寺中ノ者共ヲ呼起シ。火事ハ何地ゾ火ハ見ヌカト騒ギ回レトモ。四方寂余トシテ靜ナレバ。諸人口ヲソロヘテ御疲ノ妄夢ニテコソアラメ。心靜ニ安眠シ玉ヘトテ皆衾蒙テ卧シヌ。老僧猶心モトナサニ材木小屋ノ邊ヲ點檢セラル。ニ。柴部屋ノ傍ニ鋸屑堆ヲ作ルカ。一間四方ホド火トナリ。既ニ然升ントセシヲ見付テ。侷子共ヲ起シテ早く打消シ

④下本 22ウ

テ大火トハ成ザリキ。是偏ニ地藏菩薩靈像ノ告驚シ玉ヘルナシ
ト。弥信仰シ供養セラレキ。又西光院谷中性院廿三世法印
道雄ノ代延寶三年五月三日ノ辰刻バカリニ本堂ノ方ニ大音
ニテ火災ヨト告ルコト再三。寺内大小驚キ騒ギ。何地ヤラント周
章フタメキケルニ。本堂ノ方ニ材木ナドノ崩レ落ル響キ頻リナ
リ。諸人駢著障子ヲ啓レ。黒煙リニ火子雜リテ堂内ニ充滿セリ。
然ルニサノミ何方ノ燃ルトモナク。灰ハ堂内ニ堆ケレバ。能ク見ニ茶湯
ノ壺ニ挽茶ヲ貯ヘ入タルヲ。位牌棚ニ置シニ。晨朝ノ勤行ニ香火
ヲ點ズルトテ。謬テ紙燭ノ燼壺中ニ落テ燒テ。壺ノ廣サホドニ
板燒拔テ落ケルナリ。其灰ノ中ニ本尊ノ足ノ跡數多印ジタリ。
サテハ纜ノ壺ノ燒落タルガ材木ノ大ニ落ルニ聞ヘ。火災ヨト高聲

●續鑛石下本

二十三

三止玉ヒシハ本尊ノ冥應ナリト知ル。本尊ハ慈覺ノ作ノ阿弥陀
右脇士ハ多聞天。左脇士ハ大黒天ナリ。別シテ中尊ニ灰覆ヘル
コト夥シケレバ。靈像ノ感應ナリトテ。遠近先ヲ爭テ禮供ス。地
藏不動尊。本誓各別ナルニ似レドモ。行者ノ信心故ニ是ノ如キ利
益ヲ蒙ルナリ。此事真空真盛ノ両僧。現ニ拜見シテ諸人ニ
傳フルナリ

九ニハ不動靈像利益ノ事

智善院ノ本尊不動明王ハ傳教大師ノ作ナリ。寶永八年霜
月ニ永山關梨ノ僕七助ト云者。隣院ノ朋輩同心ニ餘谷ノ
友ノ方エ行キ。夜更テ歸リケル途中無事ナリシガ。興山寺荒
神ノ社ノ下ノ井筒ヘ真倒ニ落ケル。朋輩肝ヲ潰シ足捉手執漸

テ大火トハ成ザリキ。是偏ニ地藏菩薩靈像ノ告驚シ玉ヘルナシ
ト。弥信仰シ供養セラレキ。又西光院谷中性院廿三世法印

道雄ノ代延寶三年五月三日ノ辰刻バカリニ本堂ノ方ニ大音
ニテ火災ヨト告ルコト再三。寺内大小驚キ騒ギ。何地ヤラント周

章フタメキケルニ。本堂ノ方ニ材木ナドノ崩レ落ル響キ頻リナ
リ。諸人駢著障子ヲ啓ルニ。黒煙リニ火子雜リテ堂内ニ充滿セリ。

然ルニサノミ何方ノ燃ルトモナク。灰ハ堂内ニ堆ケレバ。能ク見ニ茶湯
ノ壺ニ挽茶ヲ貯ヘ入タルヲ。位牌棚ニ置シニ。晨朝ノ勤行ニ香火

ヲ點ズルトテ。謬テ紙燭ノ燼壺中ニ落テ燒テ。壺ノ廣サホドニ
板燒拔テ落ケルナリ。其灰ノ中ニ本尊ノ足ノ跡數多印ジタリ。

サテハ纜ノ壺ノ燒落タルガ材木ノ大ニ落ルニ聞ヘ。火災ヨト高聲

●續鑛石下本

二十三

ニ告玉ヒシハ本尊ノ冥應ナリト知ル。本尊ハ慈覺ノ作ノ阿弥陀
右脇士ハ多聞天。左脇士ハ大黒天ナリ。別シテ中尊ニ灰覆ヘル
コト夥シケレバ。靈像ノ感應ナリトテ。遠近先ヲ爭テ禮供ス。地
藏不動尊。本誓各別ナルニ似レドモ。行者ノ信心故ニ是ノ如キ利
益ヲ蒙ルナリ。此事真空真盛ノ両僧。現ニ拜見シテ諸人ニ
傳フルナリ

九ニハ不動靈像利益ノ事

智善院ノ本尊不動明王ハ傳教大師ノ作ナリ。寶永八年霜
月ニ永山關梨ノ僕七助ト云者。隣院ノ朋輩同心ニ餘谷ノ
友ノ方エ行キ。夜更テ歸リケル途中無事ナリシガ。興山寺荒
神ノ社ノ下ノ井筒ヘ真倒ニ落ケル。朋輩肝ヲ潰シ足捉手執漸

ク抱キアゲ。兎角トセシ間ニ七助少シ氣付テ息吹出シヤ長
一文許ノ山伏來リ申シケルハ。汝毎夜他行シテ身ノ不淨汗穢ヲ
顧ミ。茶湯靈供ニ至ルマデ。不淨ノ身ヲ以テ炊キ調フ。其罪赦シガ
タシト手ヲ以テ引リ擲込シト覺シ。其後ハ不知ト。朋輩大ニ恐レ
先荒神様へ御ワビコト申ント。重テハ汗穢不淨ノ身ヲ以テハ竈ノ
前ニモ立寄ジト。立願シ祈誓シテ寺ニ回リ。此事沙汰ナシトテ部
屋ニ入卧シヌ。然ルニ七助カ部屋ノ窓ノ下ニテ。彼山伏ト覺テ七
助早ク來ヨト呼。七助カ曰ク我門ハ行コトナラズ暫クアツテ
又呼答ルコトモ前ニ同ジ暫クアツテ呼音前ヨリモ急ナリケレバ
返答モ高クサレバコソ行事ナラズ。法印様ノ御叱呵候モノヲ
ト云ニ。法印ノ呵アレバ是非ナシトテ去リ又宵ヨリノ消息ツク

續鑛石下本

二一四

ト思ヒ列子。可畏サ弥増少シモ寢ズ。院主ノ居間近ク踞
リ。昨夕ハ御シカリナサレ下サレツレバコソ命助リ候ヘ既ニ危キ
目ニ逢漸ク部屋ニ戻リ卧ニ度々呼ニ來リシヲ難ヲ免レ候コ
ト有難トテ。荒神ノ社ノ下ニテ。井中ニ投入ラレシ事。毎夜他
行放逸不淨ナリシト共。悉ク懺悔シケレバ。永山モ不便ニ思
ハレ。我曾テ汝ヲ噴リシトモナシ。呼モ答ルモ皆汝ガ心ヨリ生ゼリ
不淨ヲ行ジテ沐浴モセズ。佛供茶湯ヲモ疎慢ニセシ罰ナリ以
後ヲ慎ムベシ。今般ハ本尊様へ御ワビ言申上ベシトテ誠メ曉レ
ケレバ。已後ハ無事ナリシガ。次ノ年ヨリ下山セシトカヤ。凡ソ不動
ノ本誓ハ。一持秘密咒生々而加護。奉仕修行者猶如薄伽
梵。千犯不捨離ノ誓ヒ。持戒破戒憑アルナレド。香花茶湯佛供

ク抱キアゲ。兎角トセシ間ニ七助少シ氣付テ。息吹出シ。ヤレ恐シヤ長
一文許ノ山伏來リ申シケルハ。汝毎夜他行シテ身ノ不淨汗穢ヲ
顧ミ。茶湯靈供ニ至ルマデ。不淨ノ身ヲ以テ炊キ調フ。其罪赦シガ
タシト手ヲ以テ引リ擲込シト覺シ。其後ハ不知ト。朋輩大ニ恐レ
先荒神様へ御ワビコト申ント。重テハ汗穢不淨ノ身ヲ以テハ竈ノ
前ニモ立寄ジト。立願シ祈誓シテ寺ニ回リ。此事沙汰ナシトテ部
屋ニ入卧シヌ。然ルニ七助カ部屋ノ窓ノ下ニテ。彼山伏ト覺ヘテ七
助早ク來ヨト呼。七助カ曰ク我門ハ行コトナラズ暫クアツテ
又呼答ルコトモ前ニ同ジ暫クアツテ呼音前ヨリモ急ナリケレバ
返答モ高クサレバコソ行事ナラズ。法印様ノ御叱呵候モノヲ
ト云ニ。法印ノ呵アレバ是非ナシトテ去リ又宵ヨリノ消息ツク

續鑛石下本

二一四

ト思ヒ列子。可畏サ弥増少シモ寢ズ。院主ノ居間近ク踞
マリ。昨夕ハ御シカリナサレ下サレツレバコソ命助リ候ヘ既ニ危キ
目ニ逢漸ク部屋ニ戻リ卧ニ度々呼ニ來リシヲ難ヲ免レ候コ
ト有難トテ。荒神ノ社ノ下ニテ。井中ニ投入ラレシ事。毎夜他
行放逸不淨ナリシト共。悉ク懺悔シケレバ。永山モ不便ニ思
ハレ。我曾テ汝ヲ噴リシトモナシ。呼モ答ルモ皆汝ガ心ヨリ生ゼリ
不淨ヲ行ジテ沐浴モセズ。佛供茶湯ヲモ疎慢ニセシ罰ナリ以
後ヲ慎ムベシ。今般ハ本尊様へ御ワビ言申上ベシトテ誠メ曉レ
ケレバ。已後ハ無事ナリシガ。次ノ年ヨリ下山セシトカヤ。凡ソ不動
ノ本誓ハ。一持秘密咒生々而加護。奉仕修行者猶如薄伽
梵。千犯不捨離ノ誓ヒ。持戒破戒憑アルナレド。香花茶湯佛供

等ヲ不淨ノ手ヲ以テ疎畧ニセシ故ニ。制吒迦童子ノ罰ヲ蒙リシ
ナラン。○南院ノ不動尊ハ高祖ノ御作。天下無雙靈驗第一ノ
尊像ナルコト。天下ニ隱レナキ事ナレバ。一二ヲモ記セズ。若所化衆ノ
部屋ニテ本尊ノ方エ足ナシテ卧人アレバ。必ス枕倒シニ逢佛供
ヲ燒火ノ前ニテ脛褰テ向モノハ脚腫痛其賞罰速疾ナルコト筆
ニハ記シガタシ。○又聖方圓光院ノ本尊ハ明遍僧都ノ作。三尺
五寸ノ阿弥陀佛ナリ。住持東都ニ赴キ徒弟悉ク召連行レケ
レバ自休ト云レル晩年入道ニ佛前ノ朝梵夕誦香花燈飲ノ勤メ
ニテ頼ミ置レケルニ。自休不信懈怠ニテ。茶湯靈供等モ斷クニ
テ燈明ヲサヘ挑ゲザレハ。或時燈明ヲ挑ントテ。堂内ニ入ニ本尊
厨子ノ上ヨリ蜘蛛出テ。見中ニ大蜘蛛ナリ。長キ手ヲ出シ自休

續鑛石下本

二十五

ヲ攫取テ系纏懸テ重クニ引纏ヒ天井ノ煙出マデ引付ケル
自休醉ルガ如クニテ。暫クアツテ氣ガ付。大音聲ニテ叫ケル。寺
内ノ人大ニ驚キ隣院ノ松之坊寛性闇梨ノ耳ニモ聞ヘケル故
ニ即チ來リテ見ルニ。本堂ノ天井ノ傍ニ白絹ニ裹ミタル如キ物
見テ其中ニ聲アリ。各肝ヲ潰シケルニ。寛性ノ曰ク。此ハ自休メガ
平生ノ自墮落不信懈怠ノ崇ナリ。イデ懺謝シテ得サセント
暫ク念誦セラレケレバ。俗ノ中ヨリ自休轉ヒ落テ。寛性ノ前ニ
アリ。呵嘖セラレケレバ。果シテ懈怠疎慢ノ所爲ナルコトヲ發露
シテ。其ヨリ餘ノ僧ヲ一人雇ヒ。朝夕ノ勤行ハ隣房ヨリ助修
セシメケレバ。其後ハ何ノ災殃モ無リキ

十二阿弥陀如來ノ靈像不思議ノ事

等ヲ不淨ノ手ヲ以テ疎畧ニセシ故ニ。制吒迦童子ノ罰ヲ蒙リシ
ナラン。○南院ノ不動尊ハ高祖ノ御作。天下無雙靈驗第一ノ
尊像ナルコト。天下ニ隱レナキ事ナレバ。一二ヲモ記セズ。若所化衆ノ
部屋ニテ本尊ノ方エ足ナシテ卧人アレバ。必ス枕倒シニ逢佛供
ヲ燒火ノ前ニテ脛褰テ向モノハ脚腫痛其賞罰速疾ナルコト筆
ニハ記シガタシ。○又聖方圓光院ノ本尊ハ明遍僧都ノ作。三尺
五寸ノ阿弥陀佛ナリ。住持東都ニ赴キ徒弟悉ク召連行レケ
レバ自休ト云レル晩年入道ニ佛前ノ朝梵夕誦香花燈飲ノ勤メ
マテ頼ミ置レケルニ。自休不信懈怠ニテ。茶湯靈供等モ斷クニ
テ燈明ヲサヘ挑ゲザレハ。或時燈明ヲ挑ントテ。堂内ニ入ニ本尊
厨子ノ上ヨリ蜘蛛出テ。見中ニ大蜘蛛ナリ。長キ手ヲ出シ自休

續鑛石下本

二十五

ヲ攫取テ系纏懸テ重クニ引纏ヒ天井ノ煙出マデ引付ケル。
自休醉ルガ如クニテ。暫クアツテ氣ガ付。大音聲ニテ叫ケル。寺
内ノ人大ニ驚キ隣院ノ松之坊寛性闇梨ノ耳ニモ聞ヘケル故
ニ即チ來リテ見ルニ。本堂ノ天井ノ傍ニ白絹ニ裹ミタル如キ物
見テ其中ニ聲アリ。各肝ヲ潰シケルニ。寛性ノ曰ク。此ハ自休メガ
平生ノ自墮落不信懈怠ノ崇ナリ。イデ懺謝シテ得サセント
暫ク念誦セラレケレバ。俗ノ中ヨリ自休轉ヒ落テ。寛性ノ前ニ
アリ。呵嘖セラレケレバ。果シテ懈怠疎慢ノ所爲ナルコトヲ發露
シテ。其ヨリ餘ノ僧ヲ一人雇ヒ。朝夕ノ勤行ハ隣房ヨリ助修
セシメケレバ。其後ハ何ノ災殃モ無リキ

十二阿弥陀如來ノ靈像不思議ノ事

照明院ノ本尊阿弥陀佛ハ、慧心僧都一刀三禮ノ作ナリ。昔ハ伊勢ニ在シカ故アツテ高野山ニ安置スト云傳フ。昔代ハ每朝佛餉米ヲ吐出シ玉フ故ニ米吐ノ弥陀ト申セシトカヤ。靈驗新ナルコト。古今數多シ。又當院ノ住持ノ死期ヲハ必ズ告示シ。尊像必ズ汗流玉フ。若シ獻供ノ佛供疎畧ニ懈怠アル時ハ必ズ罰ヲ蒙ルコト顯著ナリ。一年學侶圓城院專祐闍梨持病發リ平生ニ倍シテ難治ナリシカバ。故郷ノ氏神八幡宮エ祈誓セラレケルニ。其夜夢中ニ神勅ト覺テ告玉ク。汝ガ病ハ宿業ノ果ストコロナレバ。卒尔ニハ平愈スマジキゾ。百首ノ歌ヲ詠ジテ奉納スベシト明ニ告玉ヒ。即本地ノ形像ヲ現ジ玉フヲ拜シ奉レバ。即照明院ノ阿弥陀如來ナリケレバ。翌朝早且ニ參詣シテ。夢中神勅

續鑛石下本

二十六

ノ始終ヲ語り信心倍増シテ。尔後ハ每朝參詣怠リナカリケレバ。專祐ノ死期ヲモ告知シメ玉ヒ。臨終正念ニ往生セラレケルト。實城闍梨ノ説ナリ。和光同塵ノ神ハ和歌ニ賞玉フ故ニ右ノ御告アリシナリ

十一ニハ勢至菩薩ノ靈像奇特ノ事

茅堂千藏院ノ本尊ハ高祖大師ノ御作ノ勢至菩薩長一尺餘ナリ。往古ヨリ本堂ノ中尊トス。外ニ五尺アマリノ阿弥陀佛アリ。行基菩薩ノ作ナリトテ脇士トス。諸人拜見シテ皆疑フ。大佛師主ヲ脇士トシ。小像弟子ヲ中尊トスルコト不相應ナリ。何トゾ坐位ヲ居替タラバ宜シカラント云トイヘドモ。八百餘霜ノ定位ナレバ卒尔ニ改メガタク崇メケル。元祿七年住持堯雄江戸

照明院ノ本尊阿弥陀佛ハ。慧心ノ僧都一刀三禮ノ作ナリ。昔ハ伊勢ニ在シカ故アツテ高野山ニ安置スト云傳フ。昔代ハ每朝佛餉米ヲ吐出シ玉フ故ニ米吐ノ弥陀ト申セシトカヤ。靈驗新ナルコト。古今數多シ。又當院ノ住持ノ死期ヲハ必ズ告示シ。尊像必ズ汗流玉フ。若シ獻供ノ佛供疎畧ニ懈怠アル時ハ必ズ罰ヲ蒙ルコト顯著ナリ。一年學侶圓城院專祐闍梨持病發リ平生ニ倍シテ難治ナリシカバ。故郷ノ氏神八幡宮エ祈誓セラレケルニ。其夜夢中ニ神勅ト覺テ告玉ハク。汝ガ病ハ宿業ノ果ストコロナレバ。卒尔ニハ平愈スマジキゾ。百首ノ歌ヲ詠ジテ奉納スベシト明ニ告玉ヒ。即本地ノ形像ヲ現ジ玉フヲ拜シ奉レバ。即照明院ノ阿弥陀如來ナリケレバ。翌朝早且ニ參詣シテ。夢中神勅

續鑛石下本

二十六

ノ始終ヲ語り信心倍増シテ。尔後ハ每朝參詣怠リナカリケレバ。專祐ノ死期ヲモ告知シメ玉ヒ。臨終正念ニ往生セラレケルト。實城闍梨ノ説ナリ。和光同塵ノ神ハ和歌ニ賞玉フ故ニ右ノ御告アリシナリ

十一ニハ勢至菩薩ノ靈像奇特ノ事

茅堂千藏院ノ本尊ハ高祖大師ノ御作ノ勢至菩薩長一尺餘ナリ。往古ヨリ本堂ノ中尊トス。外ニ五尺アマリノ阿弥陀佛アリ。行基菩薩ノ作ナリトテ脇士トス。諸人拜見シテ皆疑フ。大佛師主ヲ脇士トシ。小像弟子ヲ中尊トスルコト不相應ナリ。何トゾ坐位ヲ居替タラバ宜シカラント云トイヘドモ。八百餘霜ノ定位ナレバ卒尔ニ改メガタク崇メケル。元祿七年住持堯雄江戸

三下り小石川傳通院前。伊勢屋六兵衛宅ニ暫ク寄宿セルニ
梅霖霽サレバ亭主幸ニ喜ビ數日留メケルニ。五月十三日ニ堯雄ノ
夢ニ本尊勢至菩薩告玉ク。往古ヨリ本尊トシテ供養スル故ニ
汝等ヲ擁護スルコト暫クモ忘レザルニ。亮惠等物ノ意ヲ辨ズ俄ニ
坐位ヲ改メントス。急ギ此旨ヲ告來セトノ玉フト思ヘバ夢覺ス。
堯雄感涙ヲ流シ。有難ク思ハレ。早且ノ念誦モ南山故院ノ本
尊ノ前ナリト觀念シテ勤行セラル。次夜ノ夢モ亦同ジク。又其
次ノ夜ノ夢モ同ジケレバ。大ニ驚キ急ニ狀ヲ書調ヘ。早便ヲ尋テ高
野ニ達セシメント。因ニ亭主ヘモ。三夜ノ御告シカクナリト語ラレケ
レバ。亭主モ感歎セル處ニ。留守居亮惠方ヨリ書來リシヲ
披見スレバ。内々諸人ノ批判愚僧共カ所存モ。大佛ノ阿弥陀
如來ヲ中尊トシ。勢至菩薩ヲ脇士トセバヤト相談相決リ。吉
日ヲ擇ンテ居替ベシトアリ。堯雄手ヲ拍テ感歎シ。亭主ニモ告
ラレケレバ。急ギ書翰ヲ高野ニ上セケル。高野ニハ今日コソ吉日ナレ
入佛供養ヲ勤ントテ。十四五輩會合シテ法事ノ用意アリシ
處エ。江戸堯雄ノ方ヨリノ狀相届ヲ披見スルニ。三夕マデ本尊
ノ御告アリシ赴キ。委細ニ書載ラレケレバ。諸僧大ニ驚歎シテ向
後坐位ヲ改ムベカラザルノ由。御厨子ニ書付。堯雄ノ狀ヲモ相
添テ。後代ノ鑑誠トシテ納置本尊ノ祕法ヲ修シテ懺悔シ祈
誓シテ各退出セリ。抑阿弥陀ハ師主ナリ。勢至ハ弟從ナリ。因
果位別ナリ。何ガ故ニカ是ノ如クナルヤ。謂ク得自性ノ段ノ曼荼
羅ノ如キハ。中胎ハ觀音八葉ハ弥陀ナリ。大ニ深祕ノ義アリ。今

●續鑛石下本

二十七

二下り小石川傳通院前。伊勢屋六兵衛宅ニ暫ク寄宿セルニ。
梅霖霽サレバ亭主幸ニ喜ビ數日留メケルニ。五月十三日ニ堯雄ノ
夢ニ本尊勢至菩薩告玉ハク。往古ヨリ本尊トシテ供養ズル故ニ
汝等ヲ擁護スルコト暫クモ忘レザルニ。亮惠等物ノ意ヲ辨ズ俄ニ
坐位ヲ改メントス。急ギ此旨ヲ告來セトノ玉フト思ヘバ夢覺ス。
堯雄感涙ヲ流シ。有難ク思ハレ。早且ノ念誦モ南山故院ノ本
尊ノ前ナリト觀念シテ勤行セラル。次夜ノ夢モ亦同ジク。又其
次ノ夜ノ夢モ同ジケレバ。大ニ驚キ急ニ狀ヲ書調ヘ。早便ヲ尋テ高
野ニ達セシメント。因ニ亭主ヘモ。三夜ノ御告シカクナリト語ラレケ
レバ。亭主モ感歎セル處エ。留守居亮惠方ヨリ書來リシヲ
披見スレバ。内々諸人ノ批判愚僧共カ所存モ。大佛ノ阿弥陀
如來ヲ中尊トシ。勢至菩薩ヲ脇士トセバヤト相談相決リ。吉
日ヲ擇ンテ居替ベシトアリ。堯雄手ヲ拍テ感歎シ。亭主ニモ告
ラレケレバ。急ギ書翰ヲ高野ニ上セケル。高野ニハ今日コソ吉日ナレ
入佛供養ヲ勤ントテ。十四五輩會合シテ法事ノ用意アリシ
處エ。江戸堯雄ノ方ヨリノ狀相届ヲ披見スルニ。三夕マデ本尊
ノ御告アリシ赴キ。委細ニ書載ラレケレバ。諸僧大ニ驚歎シテ向
後坐位ヲ改ムベカラザルノ由。御厨子ニ書付。堯雄ノ狀ヲモ相
添テ。後代ノ鑑誠トシテ納置。本尊ノ祕法ヲ修シテ懺悔シ祈
誓シテ各退出セリ。抑阿弥陀ハ師主ナリ。勢至ハ弟從ナリ。因
果位別ナリ。何ガ故ニカ是ノ如クナルヤ。謂ク得自性ノ段ノ曼荼
羅ノ如キハ。中胎ハ觀音八葉ハ弥陀ナリ。大ニ深祕ノ義アリ。今

●續鑛石下本

二十七

④下本27ウ

④下本27オ

勢至ヲ中尊スルコトモ亦此義ナルベシ。因果一如ノ法門ハ不二摩訶衍ノ佛ナリト。宥快法印ノ讚シ王ヘルモ此意ナリ。凡ソ天竺振丹日本ニ弥陀觀音ヲ本尊トスル寺院ハ百ガ中ニモ七八十アリ。餘尊ハ甚少ナシ。中ニモ勢至菩薩ヲ本尊トセルハ。只此一院ノミナリ。是大師御作ノ靈像ナル故ナリ。又世俗廿三日ヲ以テ勢至ノ縁日ト執ス。故ニ堯雄ノ夢想モ五月廿三日ニ告玉フカ。勢至ハ念佛三昧ノ本誓ニテ。極樂淨土觀音ノ補處ナリ。法然上人ハ念佛ヲ弘通セラレケル故ニ。勢至ノ化身ナリト云傳フ。然ラバ淨土宗ノ寺院ニハ專ラ此菩薩ヲ本尊トスベキモノナランカ。

十二ニ藥師阿弥陀ノ靈驗ノ事

續鑛石下本

二十八

甘露院ハ往昔ハ杉ノ寮ト号シケルヲ。白河院ノ時。甘露寺大納言殿隱遁シテ中興シ玉フ故ニ。甘露院ト改ムトカヤ。本尊藥師如來ハ春日ガ作ナリ。春日ハ明神ニアラズ。河内ノ佛工ノ名也。靈驗數多ナル中ニ。寬文中ニ一夕堂中ヨリ火事ヨト告ル聲アリ。諸人驚キ騒ギ出テ見回ニ無事ナレバ不審ナガラ歸リ臥ヌ。次ノ夜隣院ヨリ失火風烈クテ大火トナル。然ルニ甘露院ハ前夜ノ御告ニテ兼テ用心シケレバ。本尊經卷佛具什物一モ燒失ナク。土藏ニ納メタリ。是偏ニ藥師如來ノ擁護ノ故ナリト。弥信仰增長セリトカヤ○又五ノ室常福院ノ本尊。阿弥陀如來ハ慈覺ノ作ナリ。洛東真如堂ノ佛ト同木ニテ作レル像ナリト言傳フ。寬文九年六月十四日ノ晩方ニ住持光遍日課ノ修法セラレケルニ。佛ノ遍體汗

勢至ヲ中尊スルコトモ亦此義ナルベシ。因果一如ノ法門ハ不二摩訶衍ノ佛ナリト。宥快法印ノ讚シ王ヘルモ此意ナリ。凡ソ天竺振丹日本ニ弥陀觀音ヲ本尊トスル寺院ハ百ガ中ニモ七八十アリ。餘尊ハ甚少ナシ。中ニモ勢至菩薩ヲ本尊トセルハ。只此一院ノミナリ。是大師御作ノ靈像ナル故ナリ。又世俗廿三日ヲ以テ勢至ノ縁日ト執ス。故ニ堯雄ノ夢想モ五月廿三日ニ告玉フカ。勢至ハ念佛三昧ノ本誓ニテ。極樂淨土觀音ノ補處ナリ。法然上人ハ念佛ヲ弘通セラレケル故ニ。勢至ノ化身ナリト云傳フ。然ラバ淨土宗ノ寺院ニハ專ラ此菩薩ヲ本尊トスベキモノナランカ。

十二ニ藥師阿弥陀ノ靈驗ノ事

續鑛石下本

二十八

甘露院ハ往昔ハ杉ノ寮ト号シケルヲ。白河院ノ時。甘露寺大納言殿隱遁シテ中興シ玉フ故ニ。甘露院ト改ムトカヤ。本尊藥師如來ハ春日ガ作ナリ。春日ハ明神ニアラズ。河内ノ佛工ノ名也。靈驗數多ナル中ニ。寬文中ニ一夕堂中ヨリ火事ヨト告ル聲アリ。諸人驚キ騒ギ出テ見回ニ無事ナレバ不審ナガラ歸リ臥ヌ。次ノ夜隣院ヨリ失火風烈クテ大火トナル。然ルニ甘露院ハ前夜ノ御告ニテ兼テ用心シケレバ。本尊經卷佛具什物一モ燒失ナク。土藏ニ納メタリ。是偏ニ藥師如來ノ擁護ノ故ナリト。弥信仰增長セリトカヤ○又五ノ室常福院ノ本尊。阿弥陀如來ハ慈覺ノ作ナリ。洛東真如堂ノ佛ト同木ニテ作レル像ナリト言傳フ。寬文九年六月十四日ノ晩方ニ住持光遍日課ノ修法セラレケルニ。佛ノ遍體汗

④下本 28ウ

④下本 28ウ

ヲ流シ玉ヒ暫クノ間ニ蓮華臺ニ流レテ溜ル。諸徒讀經シテ居ケルヲ呼テ各見セシム。皆大ニ怪ミ恐レ慎ム。然ルニ其夜隣院ヨリ火起リ房舎悉ク回祿セシカド。本尊什物等マデ皆土藏ニ納メケレバ損失ナク。諸人ケガモナカリキ。是偏ニ本尊ノ豫メ變ヲ告示シ玉フ故ナリ

十三二六地藏菩薩種々靈驗ノ事

紀州和歌山本町梅本屋四郎兵衛壯年ヨリ聾ニナリ。常ニ雷霆ノ殷々ヲモ知ラズ。此ヲ愁テ常ニ高野山ヲ信仰シテ。毎年參詣シ。別シテ延命寺ノ引導ノ地藏尊ノ感應速疾ナルコトヲ聞及ビ。每度堂前ニ跪キ念誦シテ。罪障消滅耳根通利ナラシメ玉ヘト祈願ス。此尊像ハ大師ノ御作ニテ。後光ハ和州天野

續鑛石下木

二十九

川ノ辨才天女ヨリ。如意珠七顆ヲ盆ニ盛。大師ヘ授與シ玉ヘル盆ヲ用井玉フト言傳フ。薩埵ノ尊容ハ北面ニテ。東方ヲ回顧シ玉フ貌ナリ。振古引導ノ地藏尊ト号シテ。闔山ノ道俗死去葬送ノ時ハ。此尊ノ階前ニテ暫ク棺ヲ留メ。引導ヲ仰ギ奉リテ。奥院ニ送ル故ニ。形像頭ヲ回シテ見送り玉フナリト。四郎兵衛實永三年四月十八日。例ノ如ク參詣シテ。今般ハ延命寺ヘ案内シテ。開帳ヲ望ミケル。住持普觀自ラ出テ御扉ヲ開キ拜セシム。此男頂禮シテ目暫クモ捨ス。尊顔ヲ瞻仰シテ至心ニ祈念ス。不思議ナルカナ尊像右ノ手ヲ動シ錫杖ヲ振玉フ。兩人此ヲ見テ感涙ヲ流ス。其錫杖ノ聲四郎兵衛ガ耳底ニ徹シ聞ケル故ニ。大ニ悦ビ住持ニ向

ヲ流シ玉ヒ暫クノ間ニ蓮華臺ニ流レテ溜ル。諸徒讀經シテ居ケルヲ呼テ各見セシム。皆大ニ怪ミ恐レ慎ム。然ルニ其夜隣院ヨリ火起リ房舎悉ク回祿セシカド。本尊什物等マデ皆土藏ニ納メケレバ損失ナク。諸人ケガモナカリキ。是偏ニ本尊ノ豫メ變ヲ告示シ玉フ故ナリ

十三二八地藏菩薩種々靈驗ノ事

紀州和歌山本町梅本屋四郎兵衛壯年ヨリ聾ニナリ。常ニ雷霆ノ殷々ヲモ知ラズ。此ヲ愁テ常ニ高野山ヲ信仰シテ。毎年參詣シ。別シテ延命寺ノ引導ノ地藏尊ノ感應速疾ナルコトヲ聞及ビ。每度堂前ニ跪キ念誦シテ。罪障消滅耳根通利ナラシメ玉ヘト祈願ス。此尊像ハ大師ノ御作ニテ。後光ハ和州天野

續鑛石下木

二十九

川ノ辨才天女ヨリ。如意珠七顆ヲ盆ニ盛。大師ヘ授與シ玉ヘル盆ヲ用井玉フト言傳フ。薩埵ノ尊容ハ北面ニテ。東方ヲ回顧シ玉フ貌ナリ。振古引導ノ地藏尊ト号シテ。闔山ノ道俗死去葬送ノ時ハ。此尊ノ階前ニテ暫ク棺ヲ留メ。引導ヲ仰ギ奉リテ。奥院ニ送ル故ニ。形像頭ヲ回シテ見送り玉フナリト。四郎兵衛實永三年四月十八日。例ノ如ク參詣シテ。今般ハ延命寺ヘ案内シテ。開帳ヲ望ミケル。住持普觀自ラ出テ御扉ヲ開キ拜セシム。此男頂禮シテ目暫クモ捨ス。尊顔ヲ瞻仰シテ至心ニ祈念ス。不思議ナルカナ尊像右ノ手ヲ動シ錫杖ヲ振玉フ。兩人此ヲ見テ感涙ヲ流ス。其ノ錫杖ノ聲四郎兵衛ガ耳底ニ徹シ聞ケル故ニ。大ニ悦ビ住持ニ向

④下本 29ウ

④下本 29ウ

テ申シケルハ僕儀年久シク聾ナリシ故ハ根不具足ニテハ。未來ノ成佛モ障アリト承リシ故ニ。何トゾ六根具足シテ。自出度往生ヲ遂タク願ヒ奉リ。殊ニ地藏尊ニ歸命シ奉リシニ。只今ノ仕合言語ヲ絶シテ有難ト歡喜踊躍シテ。彌信心増進シ。其日ヨリ耳根通利ニシテ。蟻ノ鬪ヲモ聞バカリナリ。猶每度參詣ノ時ハ必ズ開帳シ玉ト約シ。檀越トナリ。今ニ現在シテ堅固ナリト普觀ノ説ナリ。○又先師寂雄ノ代ニ。元祿中ニ法眷親昵ノ院主卒去セルニ依テ。初七日ノ法事ヲ修スルトテ。一派ノ大衆エ齋ヲ儲テ追福レケレバ。延命寺中ノ僧俗僕從等マテ悉ク集會シテ。内外ヲ助ケ勤ム。留守ニハ堂守リノ道心一人ヲ殘シテ香華等ヲ司ラシム。彼齋會畢テ。寂雄歸院シテ

續鑛石下本

三十

即チ本堂恒例ノ修法ニ取付レケルニ。香華燈飲ノ辨供疎畧見ケレバ。今朝佛供燈明ヲ供養ジタリヤト。堂司ノ寮ヘ届ク程ニ高聲ニ尋ネラレケレバ。堂司唯ト答ケル時。堂ノ天井ヨリ喰タコトハ喰タガ櫃ノ中ニテト聲聞ヘケル。院主大ニ驚キ只今ノ聲ハ正シク天井ノ上ニアリ。何者カ匿レキルナラント堂司ヲ上セ見回シムルニ。元ヨリ人ナシ。堂司降リテ院主ニ向テ懺悔スラク。是正ク地藏菩薩ノ告ナルベシ。今朝佛餉ヲ燒鑪ヨリ飯櫃ニ寫スノ次。一杓ツ、地藏サマニ觀音サマニイト。櫃ノ中ニ並ベ供ゼルナリ。纔ノ事ヲ怠リ厭ヒ。本尊ノ御顯シ玉フコト。骨髓ニ徹シテ耻カシク恐シトテ涙ヲ流シケレバ。院主モ不便ニ思ハレ。汝向後堅ク丁寧ニスベシト重ク教訓セラル。満山ニ隱レナク本尊ノ靈驗ヲ感ジ。倍信心

テ申シケルハ僕儀年久シク聾ナリシ故。六根不具足ニテハ。未來ノ成佛モ障アリト承リシ故ニ。何トゾ六根具足シテ。自出度往生ヲ遂タク願ヒ奉リ。殊ニ地藏尊ニ歸命シ奉リシニ。只今ノ仕合言語ヲ絶シテ有難ト歡喜踊躍シテ。彌信心増進シ。其日ヨリ耳根通利ニシテ。蟻ノ鬪ヲモ聞バカリナリ。猶每度參詣ノ時ハ必ズ開帳シ玉ト約シ。檀越トナリ。今ニ現在シテ堅固ナリト普觀ノ説ナリ。○又先師寂雄ノ代ニ。元祿中ニ法眷親昵ノ院主卒去セルニ依テ。初七日ノ法事ヲ修スルトテ。一派ノ大衆エ齋ヲ儲テ追福レケレバ。延命寺中ノ僧俗僕從等マテ悉ク集會シテ。内外ヲ助ケ勤ム。留守ニハ堂守リノ道心一人ヲ殘シテ香華等ヲ司ラシム。彼齋會畢テ。寂雄歸院シテ

續鑛石下本

三十

即チ本堂恒例ノ修法ニ取付レケルニ。香華燈飲ノ辨供疎畧見ケレバ。今朝佛供燈明ヲ供養ジタリヤト。堂司ノ寮ヘ届ク程ニ高聲ニ尋ネラレケレバ。堂司唯ト答ヘケル時。堂ノ天井ヨリ喰タコトハ喰タガ櫃ノ中ニテト聲聞ヘケル。院主大ニ驚キ只今ノ聲ハ正シク天井ノ上ニアリ。何者カ匿レキルナラント堂司ヲ上セ見回シムルニ。元ヨリ人ナシ。堂司降リテ院主ニ向テ懺悔スラク。是正ク地藏菩薩ノ告ナルベシ。今朝佛餉ヲ燒鑪ヨリ飯櫃ニ寫スノ次。一杓ツ、地藏サママイレ。觀音サママイレト。櫃ノ中ニ並ベ供ゼルナリ。纔ノ事ヲ怠リ厭ヒ。本尊ノ御顯シ玉フコト。骨髓ニ徹シテ耻カシク恐シトテ涙ヲ流シケレバ。院主モ不便ニ思ハレ。汝向後堅ク丁寧ニスベシト重ク教訓セラル。満山ニ隱レナク本尊ノ靈驗ヲ感ジ。倍信心

④下本 30ウ

④下本 30オ

ヲ増進セリ。其後元祿十六年霜月十四日ノ夜半ニ堂中ニテ高聲ニ鎖ヲ懸ヨト呼コト再三。住持聞テ驚キ自起テ堂内ヲ見回リケルニ表側ノ障子ヲ失念シテ鎖ヲ關ザリケレバ。是本尊ノ御告ナラン。今夜若關ズバ如何ナル盜賊カ入テ。災殃アルヘキニ誠ニアリカタキ御告ナリト悦ビ合リ○又延命寺ノ院中ヲ安養寺茅堂トモ云凡ソ十一个寺アリ。正徳三年十一月三日ノ夜半ニ出火シテ二時バカリニ悉ク回祿シテ灰塵トナル。然ルニ其年ノ八月ニ延命寺ノ内ニ土藏ヲ作り替ルトテ寺内ノ寶物聖教什物道具等ヲ分チ。十一院ニ預ケ置ク。年内ニ普請ハ成就ストイヘドモ生壁ノ溼氣ヲ恐テ物ハ入ザリキ。然ルニ火災ノ前日ニ院主普觀ノ夢ニ。大火事ヲ見コト終夜ナリケレバ。翌日隣房ニ預ケ置ル物

●續鑛石下本

三十一

共悉ク取戻シ。新藏ニ納メケル故ニ。其夜ノ火災四壁悉ク焼殊ニ延命寺ハ風下ニテ新土藏ノ屋ニモ火著ケレド忽ニ風吹替リテ延命ノ一寺ハ歴トシテ残りケレバ。満山ノ諸衆是地藏菩薩擁護加持ノ然ラシムルナリト。倍信心ヲ增長セリ。二十八種ノ利益ノ中ニ火難滅除ノ一件アリ。誰人カ信ヲ生ゼザラシヤ○又智善院ノ檀處若州名田ノ庄ニ三重尾内ニ村ノ際ニ古來ヨリ小石地藏在ス。是何ノ比誰人ノ作ト云トヲ知人ナシ。只両村ノ童男女等ノ持遊物トシテ。耳モ鼻モ見辨ズ頭モ飲。左手折テ案ニ言傳レバコソ地藏尊ナレ。且ヨリ暮ニ至ルマデ。數多ノ童子ノ業ナレバ。入替リク荷テ回り。抛モシツ。跨モシツ。涎ヲ垂瀧唾吐繩著テ引回シ。棒ニテ指荷ヒ。泥田ノ中へ倒ニ擣コミ。牛馬ノ沓ニテ泥ヲ

ヲ増進セリ。其後元祿十六年霜月十四日ノ夜半ニ。堂中ニテ高聲ニ鎖ヲ懸ヨト呼コト再三。住持聞テ驚キ自起テ堂内ヲ見回リケルニ表側ノ障子ヲ失念シテ鎖ヲ關ザリケレバ。是本尊ノ御告ナラン。今夜若關ズバ如何ナル盜賊カ入テ。災殃アルヘキニ誠ニアリカタキ御告ナリト悦ビ合リ○又延命寺ノ院中ヲ安養寺茅堂トモ云。凡ソ十一个寺アリ。正徳三年十一月三日ノ夜半ニ出火シテ。二時バカリニ悉ク回祿シテ灰塵トナル。然ルニ其年ノ八月ニ。延命寺ノ内ニ土藏ヲ作り替ルトテ。寺内ノ寶物聖教什物道具等ヲ分チ。十一院ニ預ケ置ク。年内ニ普請ハ成就ストイヘドモ生壁ノ溼氣ヲ恐テ物ハ入ザリキ。然ルニ火災ノ前日ニ院主普觀ノ夢ニ。大火事ヲ見コト終夜ナリケレバ。翌日隣房ニ預ケ置ル物

●續鑛石下本

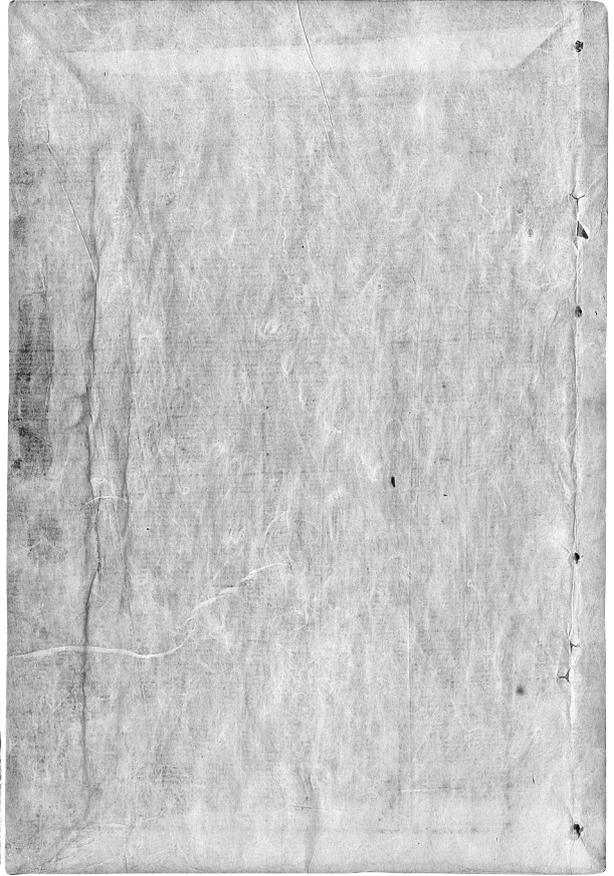
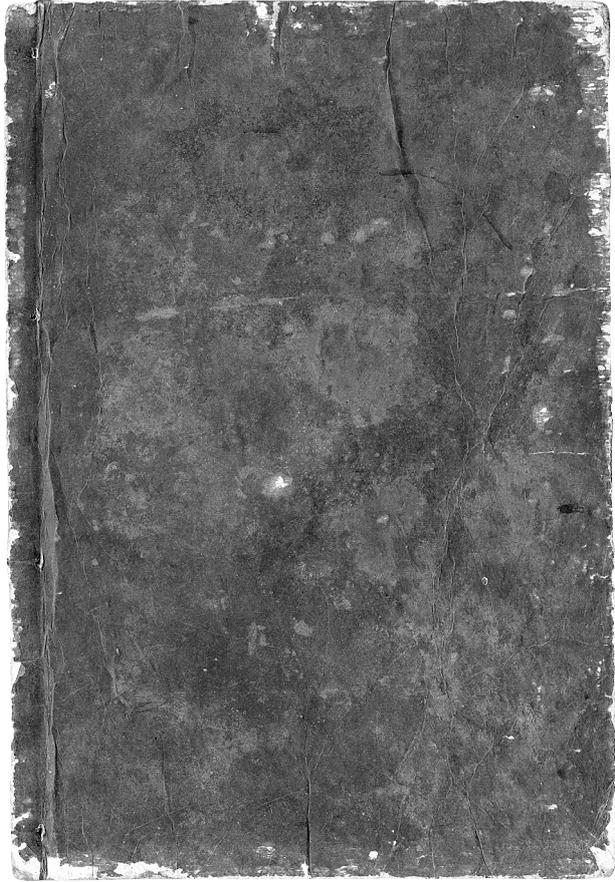
三十一

共悉ク取戻シ。新藏ニ納メケル故ニ。其夜ノ火災四壁悉ク焼殊ニ延命寺ハ風下ニテ新土藏ノ屋ニモ火著ケレド忽ニ風吹替リテ延命ノ一寺ハ歴トシテ残りケレバ。満山ノ諸衆是地藏菩薩擁護加持ノ然ラシムルナリト。倍信心ヲ增長セリ。二十八種ノ利益ノ中ニ。火難滅除ノ一件アリ。誰人カ信ヲ生ゼザラシヤ○又智善院ノ檀處若州名田ノ庄ニ三重尾内ニ村ノ際ニ。古來ヨリ小石地藏在ス。是何ノ比誰人ノ作ト云トヲ知人ナシ。只両村ノ童男女等ノ持遊物トシテ。耳モ鼻モ見辨ズ頭モ飲。左手折テ案ニ言傳レバコソ地藏尊ナレ。且ヨリ暮ニ至ルマデ。數多ノ童子ノ業ナレバ。入替リク荷テ回り。抛モシツ。跨モシツ。涎ヲ垂瀧唾吐繩著テ引回シ。棒ニテ指荷ヒ。泥田ノ中へ倒ニ擣コミ。牛馬ノ沓ニテ泥ヲ

④下本31ウ

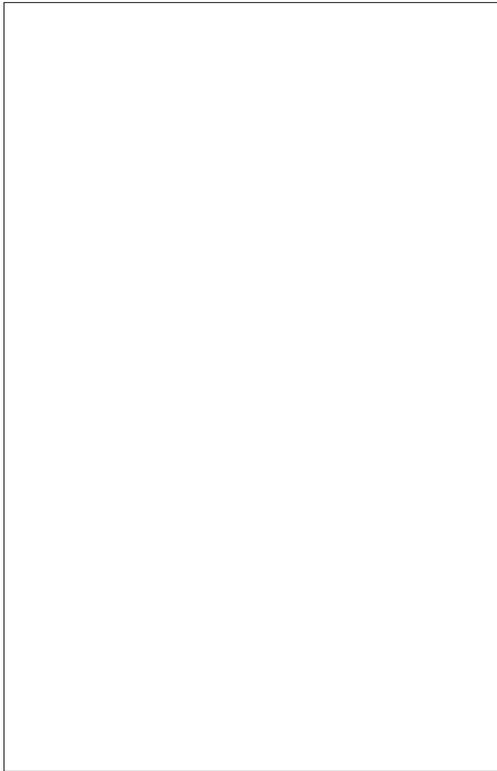
拭ヒ草履鞋ニテ撫テ。大小便ノ上トモ言ズ。踏ヤラ扣クヤラ。上ツ押
ツ。負モシツ。九夏三伏ノ暑日ニハ。地藏様ニ水沐セントテ。各川ニ荷往
テ洗ヒ。玄冬素雪ノ寒キ時ハ。落葉稿塵ヲ焼テ薫ベ。或ハ啼哭シ
或ハ大ニ笑ヒ。念佛申モアリ。小歌ウタフモアリ。渾テ石地藏ヲ弄
物ニスレドモ。昔ヨリ祟リモノナク。小兒共手足モ損ゼズ。尊像ハ漸々
闕損シ至ヘシ痛ハシキ。如何ニ大悲闍提ノ誓ナレバトテ。此ノ如ク
糺穢不淨ヲモ辨ヘス。戲弄トスルコト。童部共ノ業トハ云ナガラ。冥
罰恐レナキニシモアラズト。老父共寄合丸木柱麥藁葺ノ小堂ヲ
造リ。此尊像ヲ清ク洗ヒ安置シ奉リ。再ビ童俣ノ取り出サレ
ヤウニ。三方ハ杉板ヲ打。前ハ竹扉堅固ニ關シ。崇メ奉リケル。
然ルニ地藏尊ノ御意ニ叶ハズ。村ノ長タル一兩人ノ夢中ニ告
●續鑛石下本 三十二

玉ハク年久シク童部共。何心ナク我ヲ伴ヒ。種々慰嬉シカリシ
ニ。生小點ク堂ヲ建押込我モ寂シク。小兒ドモモ物サビシカルベ
シ。昔ノ如ク在ズンバ。村中災殃アルベシト。荒カニ示シ玉ヘバ。老少男
女大ニ驚キ恐レ。堂ヲ毀チ捨昔ノ如クシ奉リケレバ。何ノ祟リモ
ナカリケリト。村ノ長三重木工太夫語り。予モ童稚ノ時ハ同
ジク戲弄トシキ。智善院ノ使僧無啓ニ語レリトカヤ。世俗ノ説
ニ地藏尊ハ際ノ河原ニ出。童男童女ヲ濟度シ玉フト。佛説ニハ本
據未ダ見ザレドモ。誠ニサルコトアリケルニヤ。地藏ノ御託宣ニモ。菩
提心ヲ求メバ。二三歳ノ孩兒ノ意ニ成トアリ。小兒ハ貪瞋慢嫉
妒虚妄ノ惡心ナク。万事ニ執心ナケレバ。菩薩ノ御心ニ叶ヒケルナ
ラン



(せきぐち しずお

「④下本裏表紙」
歴史文化学科)



(白丁)「④下本裏表紙見返

